

市町名	テーマ
神戸市	地域の認知症の課題を知り、認知症予防に取り組んだ事
尼崎市	尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み
西宮市	誰もが「認知症であってもなくてもともに生きていくパートナー」へ ～認知症サポートべんり帳と認知症サポーター養成講座副読本を通して～
芦屋市	世界アルツハイマーデー啓発イベント
伊丹市	認知症疾患医療センターとイベントの協働開催
宝塚市	withコロナの中での <u>”つながりづくり”と”つながりの強化”</u>
川西市	川西市認知症地域資源ネットワーク構築事業 報告会 ～認知症になっても安心して暮らせるまちにするために～
三田市	三田市における認知症の正しい理解を広めるための普及啓発
猪名川町	認知症を起点とした居場所の取組みについて
明石市	地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組
加古川市	認知症の正しい理解を広めるための普及啓発
高砂市	高砂市におけるチームオレンジの取り組みについて
稲美町	認知症の人本人の社会参加・発信への支援
播磨町	地域の方への認知症啓発促進のための取り組み
西脇市	(作成中につき、後日更新)
三木市	認知症の正しい理解を広めるための普及啓発活動
小野市	地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組
加西市	出張型認知症カフェの取り組み ～今こそつながろう・つなげよう地域とのきずな～
加東市	地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組 ～認知症高齢者等の見守り、SOSネットワークの充実について～
多可町	多可町における認知症サポーターの具体的活動支援

令和4年度 【神戸市】認知症地域支援推進員活動報告

【神戸市】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：117名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症ケアパスの配布（区、地域包括）
 - ・認知症サポート医、認知症疾患医療センター等との連携
 - ・認知症ライフサポート研修の企画・運営（区、地域包括）
 - ・「高齢者安心登録事業」（行方不明の心配がある高齢者の事前登録、メール配信事業）における申請受理、利用者本人との面談（地域包括）、登録情報管理・メール配信（市社協）
 - ・認知症初期集中支援事業における対象者の抽出、チーム員（医療・介護推進財団、市社協）、初期集中支援チームとの連携（地域包括）
 - ・認知症カフェの後方支援
 - ・認知症高齢者等声かけ訓練の企画・実施（区、地域包括）

報告者氏名：神戸市福祉局高齢福祉課 川口雄大
（具体的活動報告）：ありのあんしんすこやかセンター

認知症の人にやさしいまちづくり条例の4つの柱にそって、施策を展開

予防及び早期介入

- ・ WHO、神戸医療産業都市、大学、研究機関等との連携による取り組み

治療及び介護の提供

- ・ **早期診断体制の確立**
- ・ 認知症初期集中支援チーム
- ・ 認知症疾患医療センター（市内7か所に設置）

地域の力を豊かにしていくこと

- ・ 交流できる環境や社会参加の場の整備
- ・ 中学校区単位での認知症高齢者等への声かけ訓練の実施
- ・ **行方不明高齢者早期発見事業**の実施
- ・ 市民への啓発、児童、生徒への教育の推進

事故の救済及び予防

- ・ **認知症と診断された人による事故に関する救済制度の創設**
- ・ 認知症の疑いがある人の運転免許自主返納推進
- ・ 移動手段の確保等、地域での生活支援

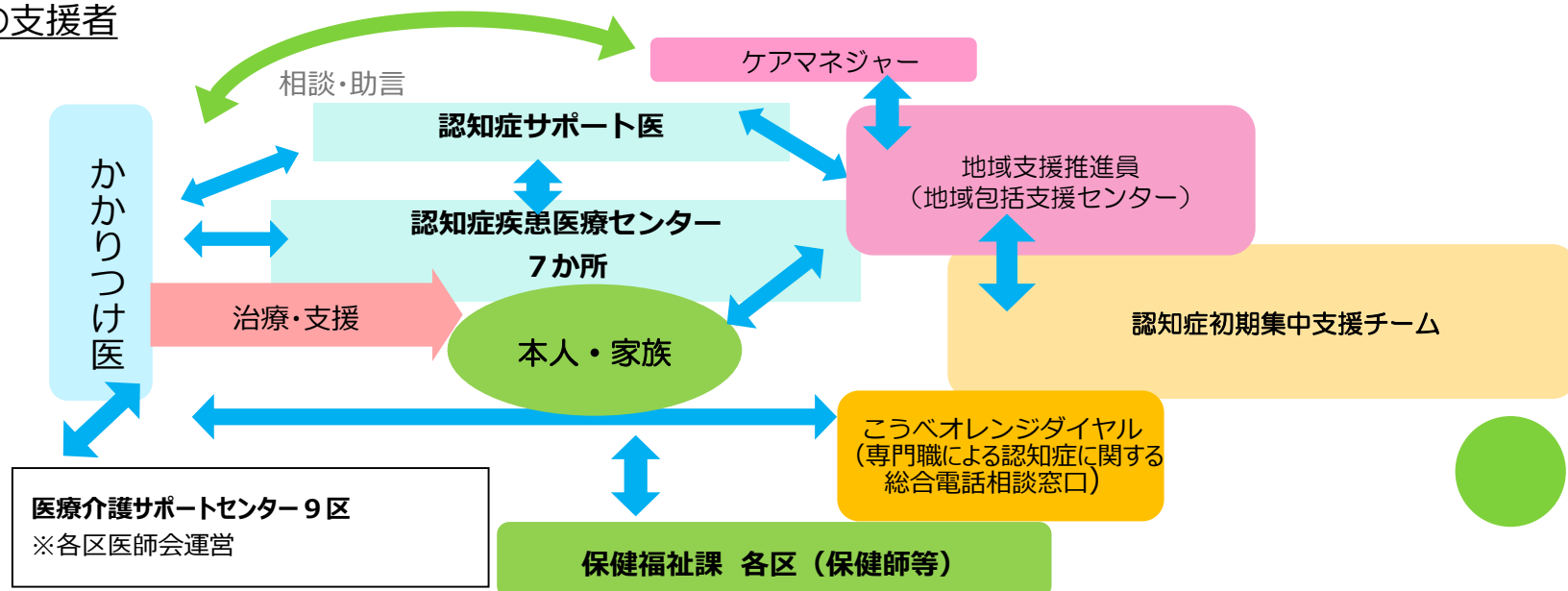
【取組例】

認知症カフェ（34か所）、認知症サポーター（約13万人）、認知症ケアパスの作成・配布、認知症地域支援推進員の配置（117人）、高齢者安心登録事業（捜査協力者約720名登録）、行方不明者緊急保護事業、認知症高齢者等声かけ訓練

◎その他の社会資源

- ・ KOBEみまもりヘルパー事業（介護保険外サービス）
- ・ 若年性認知症事業（デイサービス等職員・ケアマネジャー向け研修、交流会・サロン（神戸市社会福祉協議会・老人保健施設主催の2か所））
- ・ 県警による取組み（支援対象者情報提供制度）

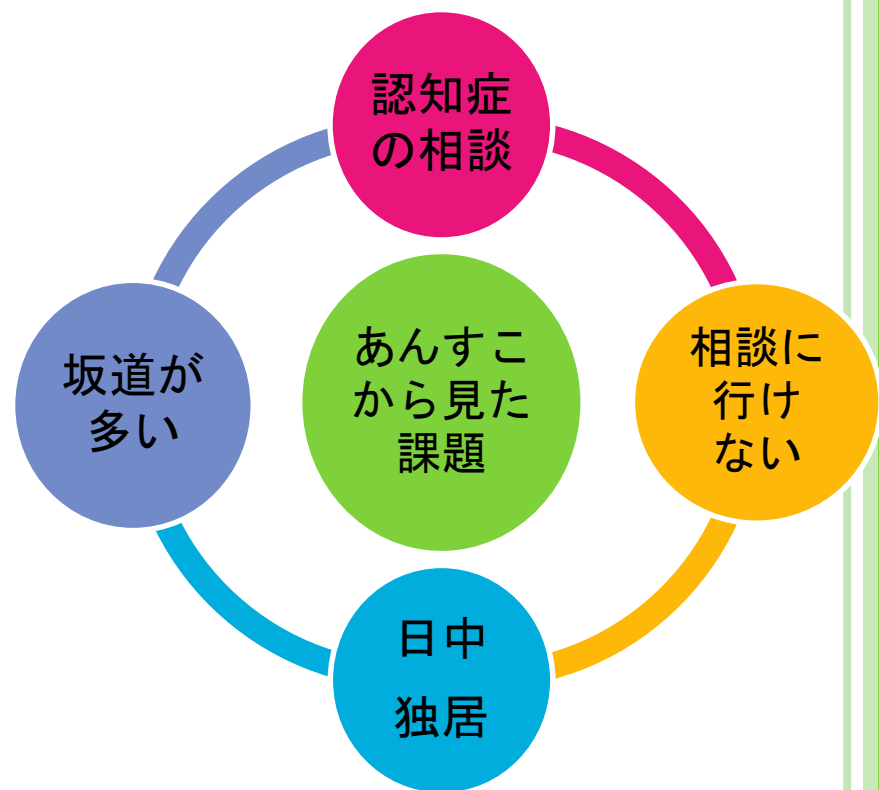
日常の支援者



標題 地域の認知症の課題を知り、認知症予防に取り組んだ事

開催準備 (令和3年6月)

「センターが取り組んだこと」
地域ケア会議を開催する前に
地域の方にアンケートを実施



○アンケートの結果

- ・ 困った時に相談する場所が分からない
- ・ 外出の機会がなくなった（少なくなった）
- ・ 筋力、体力が低下したように感じる、転びやすくなった
- ・ 他者と交流がない

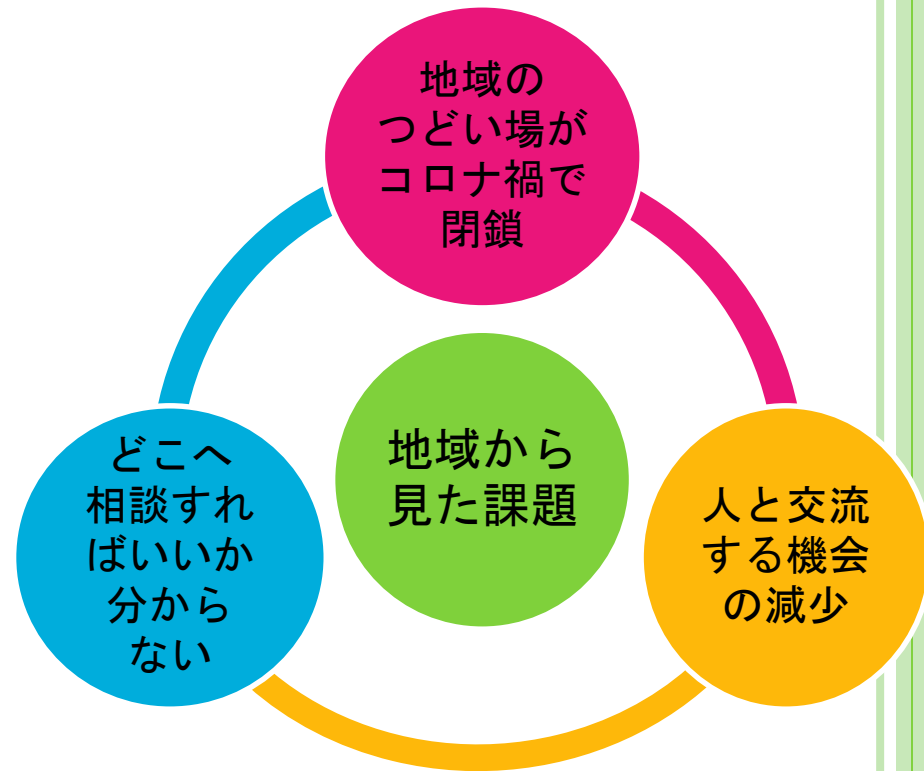
地域ケア会議開催 (令和3年10月)

テーマ：「地域の課題を知る」

- ・ 地域の実情を知る。
- ・ 今後安心して地域で生活していくために地域として取り組むことを考える。

参加者：

ふれあいのまちづくり協議会、ボランティア、
婦人会、老人会、PTA、民生委員、
北神区役所保健福祉課、北区社会福祉協議会



地域ケア会議の内容と結果

認知症の
相談

相談に
行けない

①

出張相談会の開催

- ・ 毎月第四水曜日の午前中に実施

- ・ 令和4年1月より始まった出張相談会
→地域の情報交換の場となる。
「近所で見かける心配な人がいる、どう声かけしていけばいいのか」
「担当している方が何度も同じ質問で自宅を訪ねてくる」など
- ・ 認知症の声かけ訓練について話が持ち上がった

活動実施報告

認知症声かけ訓練の実施

日時：令和4年10月24日（月）
10時～12時

場所：A1地域福祉センター 会議室2部屋

参加者：14名

（内訳：ふれあいのまちづくり協議会、自治会、
民生委員児童委員、小学校PTA、
中学校PTA、青少協、ボランティア、
北神保健福祉課、
ありのあんしんすこやかセンター）

内容：2回目の認知症サポーター養成講座
（60分）
声かけ訓練（40分）
2パターンに分かれて1人2分で実演



認知症声かけ訓練を 終えて

結果：実施後のアンケートより

- ・ 認知症についてより理解が深まった。
- ・ 声かけは思ったより難しく2分がとても長く感じた。
- ・ 地域に関心を持って困っている方がいたら勇気を出して声をかけていきたい。

あんしん
すこやか
センターの
職員全員が
交代で地域へ
出向いていく



民生委員等
との
情報共有



地域と
あんしん
すこやか
センターの
距離が
近くなった

2年目の成果

地域の実情を知ることができた

対話を続けることで
取り組みを継続することができた



○最後に・・・

○成果

- ・ 民児協と共同で開催している月 1 回の出張相談会に参加することで、地域の困り事をキャッチして認知症声かけ訓練に繋げる事ができました。
- ・ ふれあいのまちづくり協議会の協力により、子育て世代の参加など幅広い世代の方に参加してもらえました。
- ・ 地域の課題を抽出し、地域とセンターと一緒に課題解決に向けて働きかけを行う事ができ、関係性の構築に繋がりました。

○最後に

- ・ あんしんすこやかセンター職員が地域に出向いていくことで顔の見える関係が構築できました。
センターとして今後も本人、家族、地域、関係機関をつなぐ「架け橋」の存在でありたいと思っています。
- ・ 認知症の方の支援は専門職だけでは難しく、地域の方の理解と協力が不可欠です。
「認知症にやさしいまちづくりの推進」のために、今後も地域の声をキャッチして関係機関との連携を図り、素早い支援に繋がっていきたいです。

令和4年度 尼崎市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員:13名

2 認知症地域支援推進員の役割

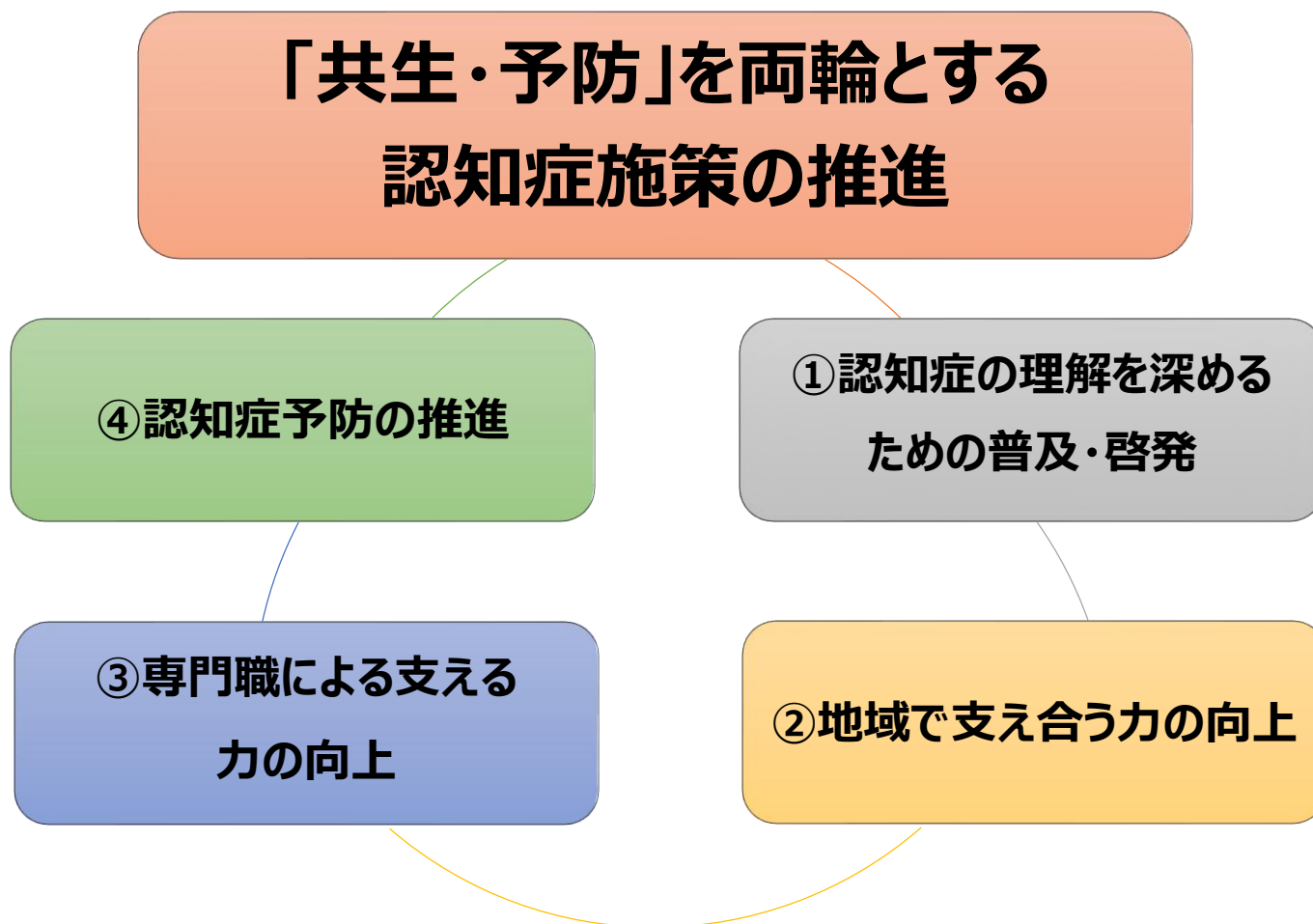
- ① 認知症の人に対し、その状態に応じた適切なサービス等が提供されるよう地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等の専門医療機関をはじめ医療・保健関係者、福祉サービス事業者や認知症サポーター等、地域において認知症の人を支援する関係者の連携を図ること。
- ② 地域の実情に応じた認知症の人やその家族等を支援するための相談支援や、支援体制を構築するための取組を行うこと。
- ③ 事業実施に関する企画および調整を行うこと。

報告者氏名:小田南地域包括支援センター 前川

尼崎市 認知症施策全体図

【尼崎市 第8期高齢者保健福祉計画の取り組み（認知症関連）】

認知症の正しい理解が進み、早期発見、早期対応につながるよう、また、認知症の人やその家族が安心して、できるだけ長く住み慣れた地域で暮らすことができるよう、次のように取り組みます。



尼崎市における「チームオレンジ」の取り組み



尼崎市では
認知症地域支援推進員を2つの
グループに分け活動しています。

- ① チームオレンジ尼崎
- ② 若年性認知症サロン

認知症地域支援推進員会議の様子

今回の報告では、**チームオレンジ尼崎**の紹介をさせていただきます。
なお、チームオレンジは、以下の3グループに分かれて活動しています。

- ① 認知症の本人支援グループ
- ② 認知症の家族支援グループ
- ③ 認知症の普及・啓発(学び)グループ

尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み

チームオレンジ尼崎とは、認知症サポーターが主となりチームを組み、認知症の人やそのご家族のお困りごとを把握し、そのお困りごとに対して支援等を行う取り組みです。

現在は、「認知症カフェ(オレンジキャラバン)」を開催する等今後活動の幅を広げていく予定です。

※現在は約40名が活動中

標題 尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み



チームオレンジ尼崎会議の様子

標題 尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み

これまでの取り組み
「オレンジキャラバン」
(認知症カフェ)

- ・認知症の本人が集う場
- ・家族が集う場



第4回
オレンジキャラバン
令和5年
3月28日(火) 参加費 無料
14時～15時30分
※緊急事態宣言が発令された場合は、延期となります。

対象者
①認知症の人
②認知症の人を介護している家族
※ ①・②各先着10名

場所
小田北生涯学習プラザ
(潮江1丁目11番1-101号)

▶オレンジキャラバンとは▶
市民ボランティア(チームオレンジ尼崎)が中心となり、運営をしている認知症カフェです。認知症の人やその家族が気軽に集える場です。

申込方法などについては、裏面をご覧ください。

表	<p>第4回 オレンジキャラバン 令和5年 3月28日(火) 参加費 無料 14時～15時30分 ※緊急事態宣言が発令された場合は、延期となります。</p> <p>対象者 ①認知症の人 ②認知症の人を介護している家族 ※ ①・②各先着10名</p> <p>場所 小田北生涯学習プラザ (潮江1丁目11番1-101号)</p> <p>▶オレンジキャラバンとは▶ 市民ボランティア(チームオレンジ尼崎)が中心となり、運営をしている認知症カフェです。認知症の人やその家族が気軽に集える場です。</p> <p>申込方法などについては、裏面をご覧ください。</p>	裏
	<p>内容 (対象者ごとに異なります)</p> <ul style="list-style-type: none">① 認知症の人(ホールにて) ・運動や相談・交流 ・カルタやトランプ など② 認知症の人を介護している家族(学習室1にて) ・医療専門員によるミニ講座 ・介護に対する悩みや不安の相談、交流 など <p>申込方法 令和5年2月20日(月)～3月24日(金)までに下記お問い合わせ先に、原則電話で申込みください。 なお、申込みの際には、①氏名、②住所、③参加のきっかけなどを確認させていただきます。</p> <p>少しでも興味があれば、お問い合わせください。 また、一緒に活動したい方もお問い合わせください。</p> <p>お問い合わせ先 〒460-8501 尼崎市東七軒町1-23-1 尼崎市 健康福祉局 福祉部 包括支援担当(担当:吉川、松井) TEL:06-6489-6356 FAX:06-6489-6528</p>	

標題 尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み

本人支援グループ

本人が望んでいることは何だろう？困っていることは何だろう？
本人に聞くのが一番！

家族支援グループ

家族同士だから話せることあるよね。

オレンジキャラバン を行う目的

学びグループ

認知症のことをもっと知ってもらいたい！

チームオレンジ尼崎サポーターにとって「オレンジキャラバン」をすることだけが目的ではありません。ここで得た知見・つながりをチームオレンジ尼崎サポーターの居住地域でもいかしてもらいたいという狙いもあります。

標題 尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み

本人支援グループ・家族支援グループの活動

オレンジキャラバン（認知症カフェ）の開催

対象者

- ①認知症の人
- ②認知症の人を介護している家族

実施内容

- ①悩み事の相談や交流、体操やレクリエーション
- ②介護に対する悩みや不安の相談、交流

参加者の声

- ①「楽しかった。また来たい」
- ②「悩みを解決できてよかった」 など

標題 尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み

学びグループの活動

認知症基礎講座の開催

目的 認知症の普及・啓発

対象者 「いきいき百歳体操」の参加者 など
※「いきいき百歳体操」高齢者向けの運動プログラム
で、おもりを使った筋力運動。

実施内容 認知症についての基礎講座（30分程度）

標題 尼崎市における「チームオレンジ尼崎」の取り組み

今後の活動について

- ・オレンジキャラバンの開催の他、新しい活動として「認知症の人の移動支援等」の検討を予定しています。

•最後に・・・

チームオレンジ尼崎のサポーターが、自ら認知症カフェを立ち上げる等地域で活躍していることから、認知症地域支援推進員としてチームオレンジ尼崎のサポーターが地域でさらに活躍できるよう、連携していきたいです。

令和4年度 西宮市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

令和3年度から“認知症つながり推進員”の通称で活動中

2 認知症地域支援推進員の役割

(1) 認知症の正しい理解と支援方法等に関する周知・啓発

- ・認知症研修会、事例検討会の開催
- ・認知症早期発見・対応啓発講座、あったか見守り声かけ講座の動画配信

(2) 認知症の人を支援する関係者との連携

- ・包括、医療機関、家族会、社会福祉協議会などとの連携
- ・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームとの情報交換・ケースの共有

(3) 地域の実情に応じて認知症の人や家族を支援する事業の実施

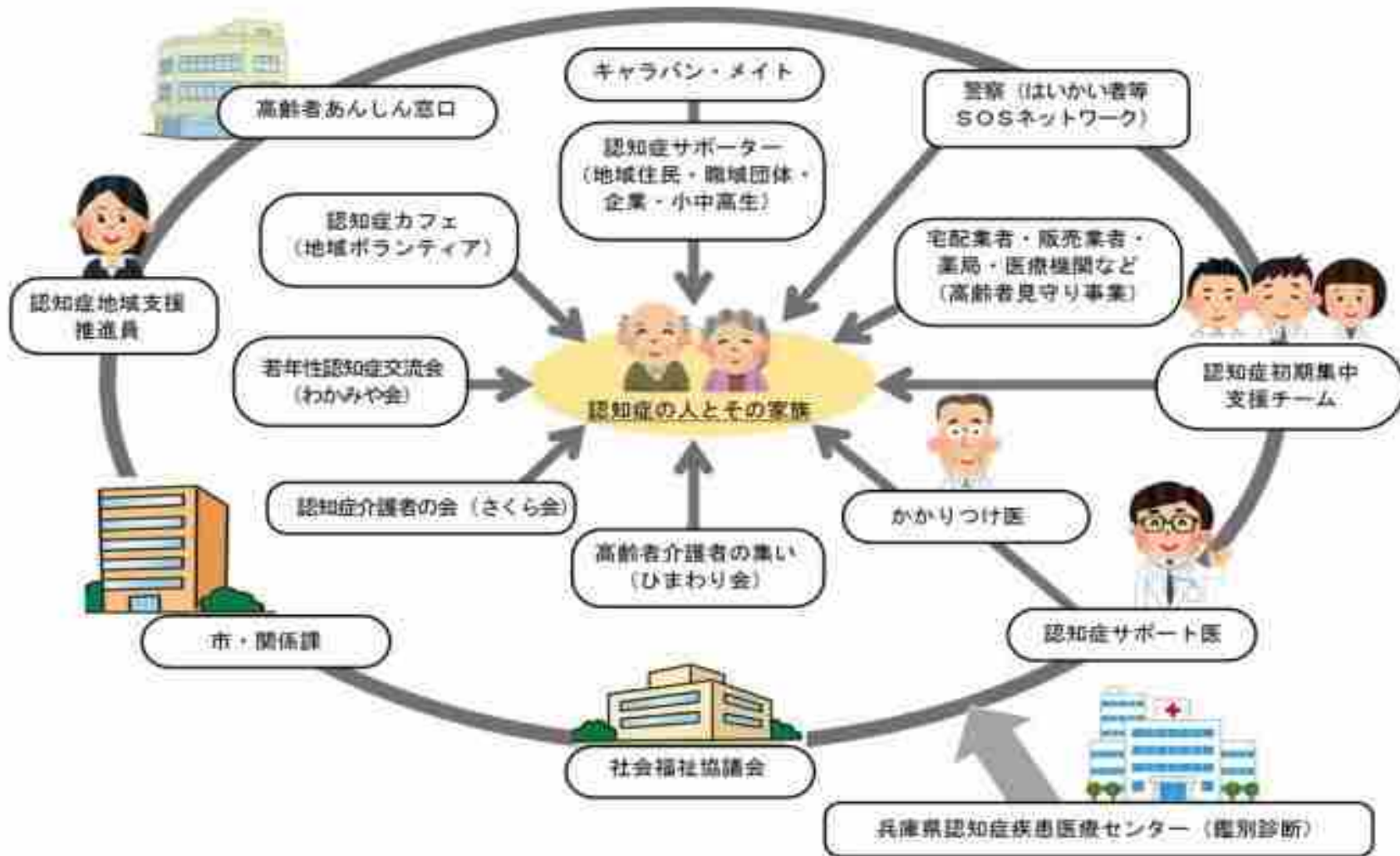
- ・認知症カフェの立ち上げ・継続支援
- ・若年性認知症交流会『わかみや会』の開催
- ・若年性認知症の人と家族への個別支援
- ・認知症ケアパス（全市版）の作成協力

報告者氏名：地域共生推進課 西本麻依子

認知症地域支援推進員 後藤香織・齋藤環

西宮市 認知症施策全体図

【認知症の人とその家族を支える関係者・機関】



標題：

誰もが「認知症であってもなくてもともに生きていくパートナー」へ ～認知症サポートべんり帳と認知症サポーター養成講座副読本を通して～

認知症サポートべんり帳 (西宮市版認知症ケアネット) 以下べんり帳



① 作成のきっかけ

平成27年度に初版作成。当初から更新していくこと決めていた。数年経過し、社会資源の多様化や、本人発信の重要性を強く感じ、令和3年度にリニューアルし、令和4年度から本格的に普及を進める。

② 主に手に取ってもらいたい対象

認知症のことが気になる人、認知症の診断を受けた人、認知症の人を介護している人、認知症に関心がある全ての人。

③ 伝えたいこと

認知症であっても自分らしく生活していけることを知ってもらい、それを実現するための心の持ち方や、どのように行動していけばいいのか、認知症への対応などの“備え”を具体的に伝えたい。

認知症であってもなくても
ともに生きていくパートナーのためのテキスト
(認知症サポーター養成講座副読本) 以下副読本



① 作成のきっかけ

標準テキストを補うものとして、西宮市の認知症への考え方や社会資源を掲載した副読本が必要と感じた。本人がサポーターに望むことなどもしっかり伝えたいと考えた。

② 主に手に取ってもらいたい対象

認知症に関心がある全ての人。

(認知症サポーター養成講座だけでなく、幅広く様々な場面でも活用できる物として作成)

③ 伝えたいこと

サポートする側、される側ではなく、認知症の人も、そうでない人も“共に生きる仲間”であり、このまちのつながりの中で生きていくパートナーであることを伝えたい。



作成に当たって大事にしたこと



- ① 本人の想いを知ってもらう
- ② 認知症を前向きにとらえてもらうのに役立つ
- ③ 認知症を自分事、みんな事と考え、受け入れられる自分になっておくことが最大の認知症への備えであることを伝える
- ④ 冊子を読んだ人が、認知症とともに送る生活を具体的にイメージできるようにする
- ⑤ 認知症予防の考え方を理解してもらう



認知症観を変える



自身で行動できる人、仲間として活動する人を増やす



共生のまちへつながる！

工夫したところ① 市、社協と一緒に協議

効果 ①

- ✓べんり帳や副読本を通して、市として市民に何を伝えなくてはならないかが明確化しただけでなく、認知症観がすり合わさった。
- ✓今後市として、認知症施策を進める**主題**が明確化し共通認識ができた。
- ➡**主題**は「認知症であってもなくてもともに生きていくパートナー」
- ✓方向性やそれぞれの役割も明確になり、心を一つにして取り組めるようになった。

工夫したところ②

- 本人の想いは若年性認知症交流会“わかみや会”でインタビュー
- 家族の想いは認知症介護者の会“さくら会”や“わかみや会”で確認

効果 ②

- ✓特にわかみや会でのインタビューは本人ミーティングの場となった。
- ✓本人の声を掲載することで本人発信の場にもなった。

工夫したところ③

➤ **べんり帳では…**

認知症であっても自分らしく生きている人の共通点を紹介

認知症とともに自分らしく暮らせるイメージをみちしるべで紹介

➤ **副読本では…**

わかみや会家族からの手紙も掲載

サポーターが理解者・見守る人から一歩踏み出し、何らかのアクションを起こすきっかけになるように作成

効果③

～べんり帳や副読本を手にとった人からの言葉～

認知症になっても
地域の中で暮らし
ていけるんですね。

他市でしているNPO
の活動で紹介したい
です。

認知症になっても
やっていける自信
ができました。

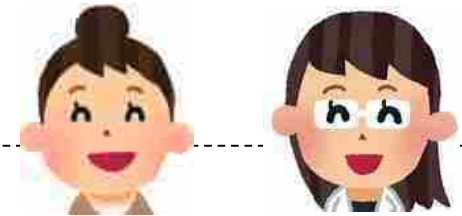
課題

➤ 市としての考え方はまとまったがそれを如何に広げるか

- 広げる機会、広げる担い手の確保。
- べんり帳は配布するだけでなく、その内容の意図もしっかり伝えなくてはならない。
- 副読本はキャラバン・メイトにしっかり理解してもらい、正しく伝わる様に、活用してもらわなくてはならない。
- 今後、再更新も必要。

➤ チームオレンジ設置に向けて

- 現在チームオレンジ設置に向けて、“認知症であってもなくてもともに生きていくパートナー”を合言葉に、当事者、活動者、市、社協、推進員などで検討しており、しっかり形にしていきたい。



• 最後に・・・

当事者の想いを出発点に、誰もがその人らしく生活できるよう推進員としては人と人つまり、心と心をつないでいきたい。人と人をつなぐ相乗効果を感じるとやりがい200%増しです！

認知症を切り口に活動していますが、目指すところは“誰もが自分らしく暮らせる共生のまち”です。みなさんも、私たち推進員もパートナーの一人として、そんなまちを一緒につくりあげていきましょう！！

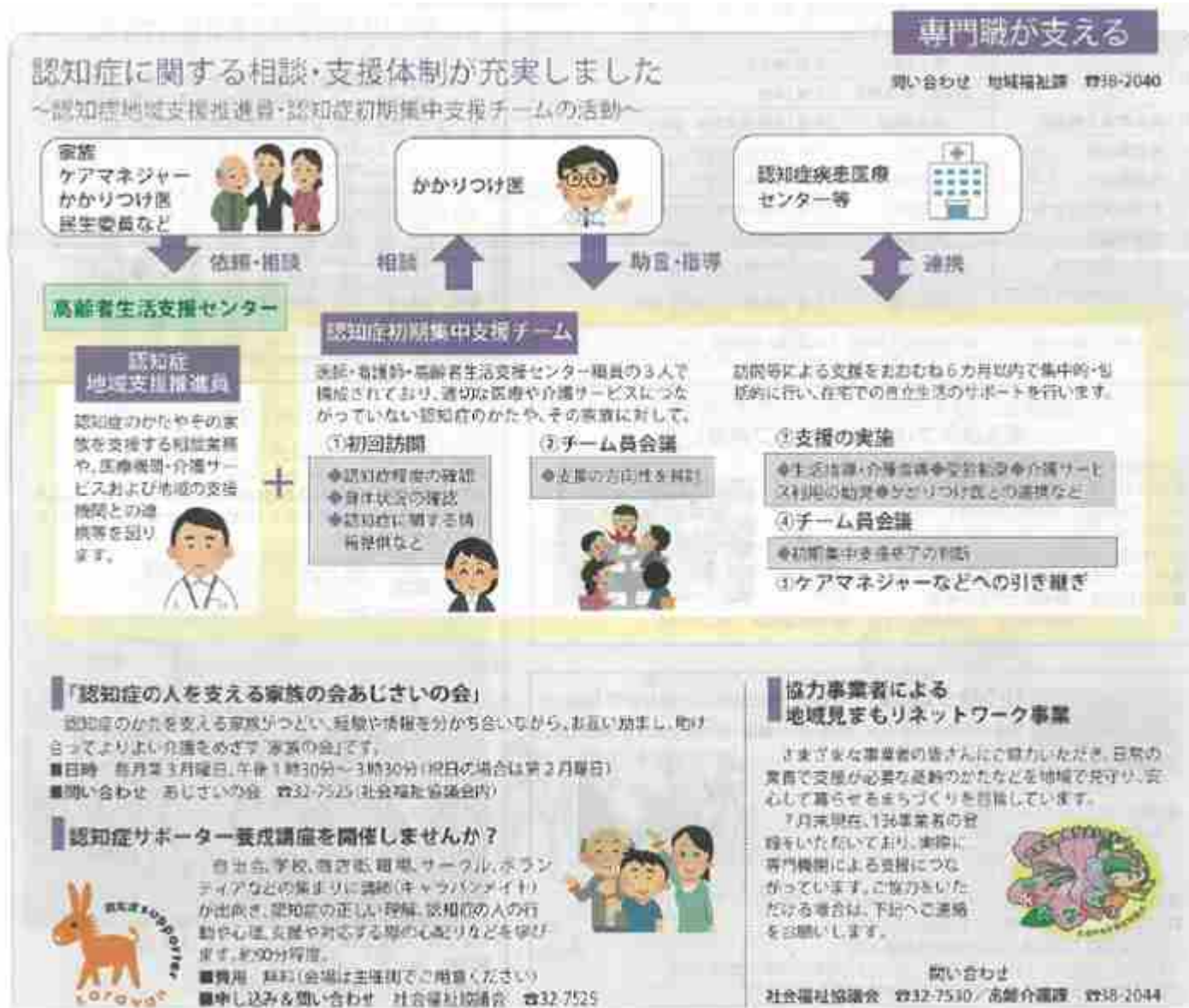
令和4年度 芦屋市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - (1)国の定める「認知症地域支援推進員研修」の受講
 - (2)キャラバン・メイト研修の受講
 - (3)地域包括支援センター職員の認知症ケアに関する専門性の向上
 - (4)認知症の人を支援する関係者との連携
 - (5)認知症ネットワークの構築
 - (6)地域の実情に応じた認知症の人やその家族を支える事業の実施
 - (7)若年性認知症の人の相談、支援

報告者氏名：**芦屋市福祉部高齢介護課 濱砂**

芦屋市 認知症施策全体図①



「認知症の人を支える家族の会あじさいの会」

認知症のかたを支える家族がつい、経験や情報を分かち合いながら、お互い励まし、助け合ってよりよい介護をめざす「家族の会」です。

■日時 毎月第3月曜日、午後1時30分～3時30分(祝日の場合は第2月曜日)

■問い合わせ あじさいの会 ☎32-7525(社会福祉協議会内)

協力事業者による地域見まもりネットワーク事業

さまざまな事業者の皆さんにご協力いただき、日常の業務で支援が必要な認知症のかたなどを地域で見守り、安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

7月末現在、136事業者の登録をいただけており、実際に専門機関による支援につながっています。ご協力をお願いする場合は、下記へご連絡をお願いします。



問い合わせ
社会福祉協議会 ☎32-7510 / 高齢介護課 ☎33-2044

認知症サポーター養成講座を開催しませんか？

自治会・学校、商店街・福祉・サークル・ボランティアなどの集まりに講師(キャラバンメイト)が出向き、認知症の正しい理解、認知症の人の行動や心遣、支援や対応する際の心遣りなどを学びます。約90分程度。

■費用 無料(会場は主催側でご用意ください)

■申し込み＆問い合わせ 社会福祉協議会 ☎32-7525




【芦屋市】認知症施策②

普及・啓発

- 講習会、広報紙等で啓発
- 認知症ケアネット作成
- 保健・医療・福祉連携
- トライやるウィーク受入
- 認知症サポーター養成

ネットワークの構築

- 認知症高齢者見守りSOSネットワークの活用
- 認知症行方不明高齢者捜索模擬訓練の実施
- 地域見守りネットワーク

早期発見 相談体制の充実

- 初期集中支援チーム
- 認知症地域支援推進委員
- 認知症相談センター
- 医療福祉連携
- 保健センターにて相談

支援の充実

- 地域密着型サービスの整備
- 認知症等高齢者GPS機器貸与事業、認知症高齢者見守り支援事業の利用促進
- 消費者トラブル早期発見
- 若年性認知症のニーズ把握と支援、仕組みの検討

居場所づくり

- 利用しやすい、気兼ねなく集まれる居場所づくり
- さわやか教室等で認知症の予防に資する取り組み

標題 世界アルツハイマーデー啓発イベント

<目的>

世界アルツハイマーデーが9月21日に位置付けられており、前後1週間で認知症の啓発を行う。啓発ポスターを募集し、最優秀賞の作品を掲示する。応募から作成の過程で、特に若い世代が認知症について考える機会が増え、市内の方が早期に認知症の人に気づけるようになることを目的とする。

<概要>

【内容】

■実施事項

「世界アルツハイマーデー啓発ポスターコンテスト2022」

■参加・企画者

認知症地域支援推進員、地域包括支援センター、基幹的業務担当、芦屋市

■工夫した点

周知方法、テーマ、審査について



世界アルツハイマーデー啓発 ポスターコンテスト2022

■啓発

認知症サポーター養成講座を実施したキッズスクウェア（放課後教室）等に個別に案内し、ポスター等の作成を依頼した。

また、認知症地域支援推進委員連絡会の啓発メンバーでチラシ配布先へ案内した。幅広く応募いただくため、チラシで参考図書等の紹介を行った。

■テーマ

「認知症の方が安心して生活できる社会の実現」

認知症に対する理解の促進に資するものとし、認知症の方への理解・交流等を造形的表現で訴えるもの（例えば認知症の方はこんな事で困っているかも、こんな風に一緒に暮らしたら良いな、こんな経験をしたなど。）とします。

また、第三者が知的財産権を保有する著作物を使用しないでください。

下記の啓発動画や参考図書も参考にしてください。

■審査について

市内で認知症に深くかかわる機関の代表に審査いただき、機関同士の連携強化と幅広い啓発に繋がられた。

- ①福祉部長
- ②社会福祉協議会 会長
- ③当事者代表
- ④あじさいの会 会長
- ⑤芦屋病院 認知症外来 医師

【成果】

- 最優秀賞の作品をアルツハイマーデー前後1週間で市内掲示板にポスターを貼り、啓発することが出来た。
- 同じ時期に市内施設の福祉センターで認知症啓発のパネル展示を行い、ポスターコンテストの結果も発表した。パネル展に華を添えることになり、今までにない注目度を集めることが出来た。（設置していた認知症ケアパスを多くの方に取っていただけた）
- 放課後教室等の小中学校へ啓発を試みたことで、連携強化につながった。

【反省と課題】

- 夏休みに取組みを開始できるよう年度初めから募集活動を開始する必要がある。
- 小中学校だけでなく、様々な世代の方からの応募を受けることが難しかった。

• 最後に・・・

認知症の理解を進める活動を充実したものにすることができた。

昨年度に初めて開催したときには4点の応募だったが、今年度は小・中学校に周知を行った結果、25作品の応募があった。

アルツハイマーデーの際の啓発活動等については、ポスター掲示以外の方法についても、検討すべきと感じた。

令和4年度 伊丹市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

◎医療・介護・地域支援サービスの連携を図るためのネットワークの構築および強化

- ・専門職間のつながりと今後の体制づくりを検討する「認知症ケア多職種研究会」の開催
- ・認知症ケアに関わる専門職を対象とした「認知症ケア多職種協働研修」の開催
- ・地域ケア会議における専門的な見地からの助言
- ・認知症初期集中支援チームの活動支援
- ・市内の認知症疾患医療センターとの連携による事業の拡大
- ・認知症かかりつけ医や認知症専門医、市外の認知症疾患医療センターとの連携による個別支援

◎認知症の人やその家族への早期支援を目指した相談支援体制の構築

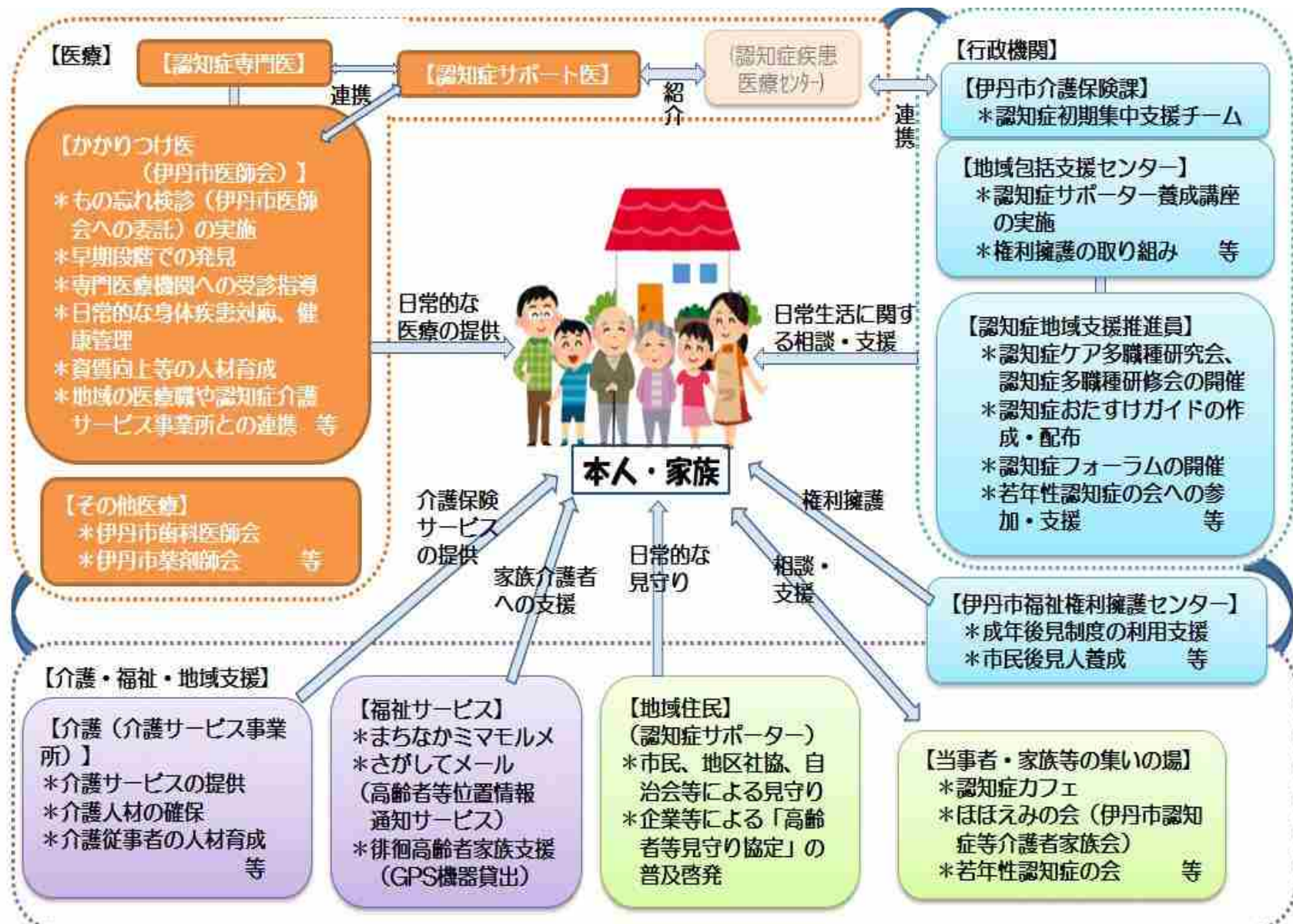
- ・認知症カフェの立ち上げ支援および本人や家族支援の検討
- ・当事者会、家族会、ボランティアグループとの連携および活動支援

◎地域への普及・啓発事業の企画および実施

- ・市内全域を対象とした認知症サポーター養成講座の実施
- ・認知症キャラバンメイトや認知症サポーターの活動創出およびフォローアップ
- ・市民を対象とした認知症フォーラムの開催

報告者氏名: ●伊丹市地域包括支援センター 認知症地域支援推進員 田中 友紀
●伊丹市 介護保険課 羽口 歩衣

伊丹市 認知症施策全体図



標題【認知症疾患医療センターとイベントの協働開催】

「いたみオレンジフェア

～認知症、1人で悩まず共に繋がろう～」

開催日時:令和4年9月15日(木)14:00～16:00

共催の経緯:市内の認知症疾患医療センターが、世界アルツハイマーデーに合わせた認知症啓発イベントを企画し、市および認知症地域支援推進員に共催依頼があった。市・推進員としても地域住民に向けた普及啓発は重要な活動であるため、協働で実施することとなった。

開催目的:市民が認知症に関する知識や相談窓口および医療機関について知ること。また、認知症について1人で悩んだり抱え込まないように公的な相談機関の他、地域の社会資源を知り、繋がる契機にする。

参加対象:伊丹市民(定員50名/最終39名来場)



●役割分担

機関	事前準備	当日の役割
認知症地域支援推進員	<ul style="list-style-type: none">●認知症カフェと家族会代表者への協力依頼●案内チラシの作成●PRと参加申し込み受付●掲示用パネルの作成●講師依頼	<ul style="list-style-type: none">●会場設営●個別相談対応 (地域の社会資源)
市(介護保険課)	<ul style="list-style-type: none">●会場予約(減免申請)●パンフレットや介護保険の手引き等の準備●推進員と共に本イベントの位置付けを確認	<ul style="list-style-type: none">●会場設営●受付●個別相談対応 (介護保険制度)
認知症疾患医療センター	<ul style="list-style-type: none">●疾患医療センターのリーフレット準備●掲示用パネルの作成●講義資料の作成	<ul style="list-style-type: none">●前半の講義●個別相談対応 (症状・治療・対応方法など)

前半

講義「さまざまな認知症状への理解」

疾患センターの医師による講義を実施。認知症の種類に加え、その症状の現れ方や進行具合は個人差があることを学んだ。またこれらの知識をベースに持ちながら本人の想いを尊重して接することの大切さを知る。



後半 「展示・資料コーナー閲覧＆質疑応答」

認知症に関する相談窓口や集いの場に関する資料、書籍などを閲覧できるようにした。また、スタッフが認知症に関する質問や相談へ対応し、情報提供や必要な相談窓口を案内した。



【まとめ】

- 認知症について市民に発信できたことに加え、認知症疾患医療センターと共催し、1つのイベントを無事終えられたことは、互いの成功体験になった。
- 疾患センターの強みは**医療者としての知識**を提供できることである一方、市・推進員の強みは**全体の構成の立案**や**各団体（認知症カフェ等）へ協力を呼びかけて資料を作成したり、PR活動を担える点**である。それぞれの強みを生かし、役割を明確にすることで、より中身の充実したイベントを開催することが出来た。

最後に...

推進員の役割として、事業を展開するにあたり認知症疾患医療センターはじめ地域のさまざまな機関に協力依頼することがある。一方でそれらの機関が地域に向けて何か発信したい時、活用してもらえる立ち位置にいることも推進員として大切なことだと考えている。今後も協力関係を構築しながら伊丹市の認知症施策を進めていきたい。

令和4年度 宝塚市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 地域にある様々な見守り資源・ネットワークの強化と深化
 - コロナ禍でも実施可能な啓発活動の開発と実践

報告者氏名: 苅田 和也 ・ 前川 喜代美
野木 淑加 ・ 辻 貴美
秋元 瑞穂 ・ 中村 沙綺
藤野 智誉子 ・ 外堀 佳代

宝塚市 認知症施策 全体図

高齢者にやさしい 地域づくりの推進

- * エイジフレンドリーシティ行動計画に基づく取り組みの検討
- * たからづか地域見守り隊活動（宝塚市社会福祉協議会）との協働
- * 宝塚市認知症高齢者等みまもり登録の活用
- * 宝塚警察署生活安全課との連携強化
- * 高齢者の権利擁護に対する取り組みの推進

普及・啓発の推進

- * 認知症サポーターの養成と活動の場づくり
- * ステップアップサポーターの養成と活動の場づくり
- * 小中学校、高校での認知症サポーター養成講座の実施

認知症の人とその家族 への支援

- * 認知症カフェの活動支援
- * 認知症の当事者・家族の思いや声を発信できる機会・場の充実
- * 認知症の当事者・家族と介護関係者の情報交換の場づくり
- * 認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施
- * 宝塚市認知症高齢者等見守り機器貸与事業の活用

認知症の人やその家族 の視点の重視

若年性認知症施策の強化

- * 障碍福祉課、障碍福祉関連事業所等との連携強化
- * ひょうご若年性認知症支援センターとの連携強化

適時・適切な医療・介護 等の提供

- * いきいき百歳体操の普及推進
- * ふれあいいきいきサロン活動への助成
- * 認知症初期集中支援チームの活動促進
- * 介護保険事業計画に基づく介護サービス基盤の整備
- * 認知症ケアパスの積極的活用
- * 阪神圏域認知症疾患医療センターとの連携の推進

withコロナの中での“つながいづくり”と“つながりの強化”（宝塚市）

コロナ禍からwithコロナへと意識が変化する中で、昨年度に引き続き、弱まったつながりの強化、途切れたつながりの再構築、新しくできたつながりの維持など、“つながり”を共通テーマに活動を行いました。

①薬局・薬剤師との連携 ～スムーズな情報共有に向けて～

テーマ：在宅でのお薬に対する支援

～認知症の方の服薬にまつわるエピソードを通じて～

令和2年度からの継続で、地域ケア会議の開催を通じ、薬局・薬剤師との連携をスムーズに行う方法を検討し、実践につなぐ。



昨年までに把握した課題


- ・薬局の窓口で、気になる人がいてもどうして良いかわからない。
- ・薬剤師とケアマネ・包括は、居宅療養管理指導以外でのつながる手段が少ない。
- ・どのような情報を共有すればスムーズに連携できるのか。シンプルで確実な連携ツールがあれば良い。

令和4年度の取り組み

他の自治体で作られた連携ツールを参考にしながら、宝塚市版の連携ツールづくり、運用ルールづくりを進める。

令和4年度薬局・薬剤師連携地域ケア会議

スムーズな連携のためには何が必要？何ができる？

薬剤師ができること	ケアマネジャーができること	地域包括ができること
<ul style="list-style-type: none">・気になる人がいたら包括に連絡する	<ul style="list-style-type: none">・サービス担当者会議時の出席依頼	<ul style="list-style-type: none">・気づきシートを再検討して宝塚市版を完成させる
<ul style="list-style-type: none">・気づきシートの活用	<ul style="list-style-type: none">・お薬手帳に名刺を入れる	<ul style="list-style-type: none">・顔の見える関係づくりの場の提供（継続）
<ul style="list-style-type: none">・ケアマネ、包括への問い合わせを行う	<ul style="list-style-type: none">・お薬手帳にケアマネ、事業所名を記入する	<ul style="list-style-type: none">・照会があった場合には、伝えられる範囲で情報提供を行う（積極的に）
<ul style="list-style-type: none">・お薬手帳カバーの配布	<ul style="list-style-type: none">・気づきシートなど、つながるためのツールの活用	

認知症地域支援推進員は、気づきシートの積極的な利用を進める。
包括内の他の職員や地域のケアマネに、積極的な情報共有を提案する。

今後は、各地域での医療介護連携推進の一環として、他の職種も含めたスムーズな連携が図れるよう、実践していくこととする。

②若年性認知症支援勉強会の実施

推進員会議にて：「ここ数年、若年性認知症の方と出会う機会が少しずつ増えているけど、支援の経験が少なく、支援者側も迷う場面が多いと感じている。」

課題：

- 若年性認知症の方の支援に接する機会が少ない。
- 支援の経験を引き継ぐことが難しい。



課題の解決に向けて：

- 若年性認知症の方々の思いを知りたい
…当事者、家族にお話を聞く機会をつくる
- 課題を共有したい
…障害相談支援機関、ケアマネジャーに声かけ
- 実際の支援について知りたい …勉強会の実施



宝塚市若年性認知症勉強会

- 【講師】 ひょうご若年性認知症支援センター 若年性認知症相談員 岩井 史子様
川西市若年性認知症の会 りんどう (RING・DO) の会 川並 隆様
- 【日時】 第1回目：令和5年1月18日(水) 13:30~15:30
第2回目：令和5年1月31日(火) 13:30~15:30 ※2回とも同内容で実施。
- 【内容】
• 若年性認知症の方の支援の実際
• 若年性認知症当事者のご家族から「支援者に伝えたいこと」
- 【対象】 地域包括支援センター職員、委託相談支援事業所職員、居宅介護支援専門員 等

参加者 計 103名

アンケートより

- 早期に相談してもらえよう、社会の理解を深めることが大切
- 家族の葛藤も支えられる支援が必要
- 多機関で支援することの重要性を改めて感じた

等々



③ステップアップサポーター養成講座



コロナ禍で2年間休止していた講座を再開する。

- ・実習の受け入れ先を新たに見つける必要があるかも…
- ・コロナ禍の影響で、ステップアップサポーターが活躍できる場はどうなっている？

【プログラム】令和元年度と同内容で実施

	内容
第1回 「知る」	<ul style="list-style-type: none">・講義とワーク 「認知症の人の心と関わり方」 「傾聴とは」・認知症の人と家族のお話・実習についてオリエンテーション
第2回 「体感する」	<ul style="list-style-type: none">・体験実習・実習振り返りシートの記入
第3回 「深める」	<ul style="list-style-type: none">・グループワーク「体験実習の振り返り」・実践報告・グループワーク「できることから始めよう」

【参加者】7名

【第2回 実習場所の種類】

- ・一般デイサービス
- ・認知症対応型デイサービス
- ・グループホーム

【第3回 実践報告の内容】

- ①地域活動について（生活支援コーディネーター）
- ②グループホームから
 - ・入居者も地域住民の一員
 - ・楽しく幸せに暮らすために
- ③オレンジカフェの紹介
- ④チャレンジファームの紹介（住民ボランティアと当事者で野菜づくりをする活動）
- ⑤いきいき百歳体操と包括の紹介

【第3回 グループワークで出された意見等】

体験実習の振り返り

- ・声かけ、会話が難しかった
- ・皆さんが安心して過ごされるように、スタッフの方々が心がけていたのがわかった
- ・利用者がどう過ごしたいのか、周りが合わせられるように配慮されていた

できることから始めよう

- ・これまで仕事ばかりで近所づきあいをしてこなかったため、まずは近所の人へのあいさつから始める
- ・話を聞くだけでなく、実際に出向いて見ていきたい
- ・サロンを再開し、無理のない形で継続したい
- ・自分に合う活動を探していきたい

実施後の振り返り

- コロナ禍でサポーター養成講座を開催できていないので、参加者が少なかった。
- 参加者が少ない分、希望者は2か所で実習できた。よい経験になっていた。
- 実習場所について、オレンジカフェやサロン等、身近な場所での実習を希望される方がいなかった。専門職の関わり方を見たいのかもしれない。
- 今回は当事者の話を直接聞く機会を設けられなかった。この機会があれば、理解がさらに深まるのではないか。実際の活動もイメージしやすいかも。



次年度以降は

- サポーター養成講座の開催を定例化する
- オレンジカフェやサロン等の身近な場所を、終了後の活動場所としてつないでいく方法を検討する
- 当事者の声を直接聞くことができるような内容にしていく。

④ステップアップサポーター交流会

ステップアップサポーター養成講座と交流会はセットで実施する！

- 目的
- 活動したい思いのある方と活動の場がつながる機会を増やす
 - 情報交換の場があれば参加したい人が多数いる
 - 新たな出会いをつくっていききたい
 - 継続して集まることで、活動の意欲を持ち続けてもらいたい



「認知症の人の権利を守るしくみのお話」

令和5年3月8日（水）13時30分～15時30分

- 成年後見制度と市民後見人のご紹介
- 高齢者虐待の早期発見について

【参加者】14名
（案内送付47名）



【参加者の声】

- ・認知症の人は虐待される危険性が高くなることがよくわかった。
- ・（実際に認知症の家族を介護して）家族が我慢し犠牲にならなければ、介護は成立しなかった。家族も守られるべきである。
- ・コロナ禍で人と会って話す機会が減り、ストレスの溜まっている人が多い。サロンを再開して感じている。サロン参加者数は、コロナ前には戻っていない。

実施後の振り返り

- ・家族も当事者であることをしっかり意識しておく必要があることを再認識した。
- ・地域のつどいの場が再開しても、人が集わなくなっている？
→もっと実情を知り、ステップアップサポーターの活動とつなげられるとよい。

最後に

再開、復活などの言葉を多く使いながら、いろいろと取り組んだ1年でした。コロナ前の方が良かった点、新しいものの方がうまくいくこと等、その場に応じて工夫しながら進んでいくしかないと感じることも多くありました。それでも、推進員が集まって話していると、「味方がたくさんいる」ことを実感できます。今後もさらに味方を増やししながら、楽しく取り組み、地域に還元していくことを目指していきたいと思います。

令和4年度 川西市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名（各包括に1名ずつ専任の推進員を配置）
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - (1) 認知症の人が認知症の容態に応じて必要な医療、介護等のサービスを受けることができるための関係機関との連携体制の構築業務
 - (2) 認知症の人等への相談・支援業務
 - (3) 川西市医師会や認知症サポート医、認知症疾患医療センター専門医等との連携業務
 - (4) 川西市認知症初期集中支援チームとの連携及び支援業務
 - (5) 川西市認知症地域資源ネットワーク推進会議との連携体制の構築業務
 - (6) 認知症カフェへの支援業務
 - (7) 認知症予防事業の推進業務
 - (8) 認知症の方やその家族等の意見や、地域の実情に応じた認知症施策の企画調整への協力
 - (9) その他認知症に関すること

報告者氏名：

中山緑、今北紗友里、乾朋治、山本敬子、山本一美、林崎仁美、篠崎善之、田上美由紀

川西市の認知症に関する施策の方向性と取り組み

川西市高齢者保健福祉計画 第8期介護保険事業計画

令和3(2021)年度～令和5(2023)年度

基本目標3 認知症になっても自分らしく暮らす ～認知症施策の充実～

認知症施策推進大綱に基づき、認知症予防の啓発、取り組みを一層充実していくとともに、認知症になっても、自分らしく、希望を持って住み慣れた地域で安全・安心に暮らし続けられるよう、認知症の人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」の両輪で認知症の人を支える仕組みづくりを進めます。

項目	方向性	具体的取り組み	地域の取り組み
(1) 認知症の予防と啓発	①認知症の予防 ②認知症の早期発見と適切なケアの普及	介護予防教室 認知症ケアネット 認知症チェックリスト	— — —
(2) 認知症支援体制の充実	①認知症地域支援推進員の取り組み ②認知症初期集中支援チームの取り組み ③地域における支援体制の充実 ④地域のみまもりネットワークの構築	認知症地域支援推進員 認知症初期集中支援チーム 認知症サポーターやキャラバン・メイト等の養成 認知症カフェ助成金 認知症地域資源ネットワーク構築事業推進会議 認知症みまもり登録、靴用ステッカー 認知症行方不明者SOSネットワーク 川西行方不明者SOSネット	— — 認知症サポーター養成講座、キャラバン・メイト連絡会 認知症カフェ(11か所)、認知症カフェネットワーク連絡会 — 地域ケア会議 認知症行方不明者SOSネットワーク訓練 協力者登録
(3) 若年性認知症への対応		ニーズの把握と支援サービスのあり方の検討 市民などへの啓発	— 若年性認知症カフェ

● 新規・拡充施策

施策	内容
チームオレンジの立ち上げ	認知症の人ができる限り地域の良い環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族の支援ニーズと、認知症サポーターなどによる支援をつなぐ仕組みである「チームオレンジ」について、認知症地域支援推進員とともに立ち上げます。

今回報告会を開催することになった経緯

コロナ蔓延により地域の活動が減少・・・

以前は集まって報告会を開催し、他地区と情報交換をしていたが、R2～4年度は活動状況を冊子にして共有するのみであった。

地域住民からも「他地域がどのような活動をしているのか知りたいし話を聞きたい」という意見があり、3年ぶりに集合型で開催！

川西市認知症地域資源ネットワーク構築事業 報告会

～認知症になっても安心して暮らせるまちにするために～



3年ぶりに開催しました！

〈地域の取り組み発表〉

- 明峰地区 キャラバン・メイト代表
「明峰地区で行われている認知症への取り組み」
- 川西北小地区 キャラバン・メイト代表
「これからの認知症カフェについて」
- 東谷地区福祉委員長
「認知症カフェ“ふらっと・b”の取り組みと今後について

～参加者の声を交えて～



〈事業所の取り組み発表〉

- 市内3店舗経営 セブンイレブン店長による
「誰もが安心してお買い物ができるようにするために」



明峰地区 キャラバン・メイト代表 「明峰地区で行われている認知症への取り組み」

基礎的活動

【啓発・研修・企画・広報】

- ① キャラバンメイト連絡会(1回/月)
- ② 認知症サポーター養成講座開催
 - ・「たのみ隊」(3/24日) 23名参加
 - ・「安心サポート」(9/15日・29日) 51名参加



- ・鶯台自治会(11/5日) 24名参加
- ・阪急百貨店7包括合同(12/1日)
- ③ 認知症行方不明者SOSネットワーク訓練
 - ・「安心サポート」(11/17日) 15名参加
- ④ チームオレンジ説明会 (7/26日)
- ⑤ キャラバンメイト増員(2名増員13名に)
- ⑥ 広報 (福祉委員会だよりに掲載2回/年)

認知症予防

- ① 自治会単位に「いきいき元気倶楽部」「いきいき百歳体操」開催
- ② 脳活倶楽部の自立グループが活動継続(3グループ)

見守り活動

「安心サポート」



- ① 顔の見える小地区単位毎の見守り・声掛け・専門職へのつなぎ・・・など
- ② サポーター120名(福祉委員、民生委員、民生協力委員他)
- ③ 小地区単位の定期連絡会 (2回/年)
 - ・情報共有と役割分担
 - ・専門職(認知症地域推進支援推進員・社協コミュニティワーカー)の出席

《認知症の方への活動状況》

認知症又は懸念がある方の情報は小地区定期連絡会で毎回数件ある。ケース毎に専門職と相談しながら今後の見守り内容と担当を決めている。

居場所

「たんぽぽ」



- ① 自治会館など7か所で開催
 - 《認知症の方への活動状況》
 - ・本人又は家族の方が参加されている。(2ヶ所3名、1名の方は若年性認知症)
 - ・見守り活動などで誘い。
- ※新たに公園を利用した
”青空カフェ”(仮称)を検討中

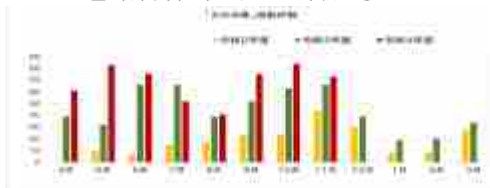


生活支援活動

「たのみ隊」



- ① 日常生活面におけるお困りごと支援
- ② 隊員数69名、活動件数平均60件/月



《認知症の方への支援状況》

- ・依頼はケア会議、ケアマネージャー、民生委員からのルートが多い。
- ・依頼内容は話し相手、ゴミ出し、掃除、庭の手入れなど
- ・高齢者夫婦でどちらかが認知症の事例が多い。(今年度10数件)
- ・話し相手(2件)
- ・付添い(1件あるもキャンセル)

認知症行方不明者SOS

—「明峰地域ネットワーク」—
を検討中

明峰地域の方が行方不明になった場合、迅速に地域内で捜索出来る仕組み。

川西北小地区 キャラバン・メイト代表 「これからの認知症カフェについて」

ものわすれカフェについて



キャラバンメイト定例会と認知症カフェ「ものわすれカフェ」を、各々月1回開催しました。新しいキャラバンメイトの参入もありました。カフェについては【コロナ禍の中でこそ開催していきたい！】との思いで活動を続け、毎回多数の参加を得ることができました。認知症への正しい理解と、認知症になっても笑顔で暮らせる地域をめざして、これからも頑張りたいと思います。

メガネの三城で認知症カフェ開催

初めての試みで、地域にある眼鏡店「メガネの三城」での（小規模）認知症カフェを、年4回開催させていただくことになりました。お店の社会貢献という理解をいただき、地域資源として活用できたことは幸せでした。ゆったり落ち着いた雰囲気の中、心穏やかにお互いの顔を見ながら、日頃の思いが話せる居場所をめざします。今までのコミュニティプラザ萩原での「ものわすれカフェ」とは、また一味、趣の違う地域の居場所となりそうです。



～これからの認知症カフェについて～

以前から認知症カフェについての模索を続けてきましたが、カスタマーアンケートの要望欄に「認知症カフェへの場所提供のお願い」を書いたことから、新たなご縁が生まれ、新たなカフェ誕生につながりました。今後も、地域内の色々な施設や店舗または空き家などの利用を、理解と協力を得て、地域の我々が気軽に集える居場所となることを期待します。認知症になっても、明るく包み込んでもらえる居場所が川西市に一つでも多く生まれますように！！

東谷地区福祉委員長 「認知症カフェ“ふらっと・b”の取り組みと今後 について～参加者の声を交えて～」



ピア・カウンセリング機能



同じ境遇の方同士
だからこそ「共感」がある。

自分だけが悩んでいるのではないと、
ホッとすることも。

他者の介護の方法、
関わり方を見て
学ぶことができる。



認知症
が理解できる
カフェ
～ふらっと・b～

対話重視！

認知症の「人」ではなく、その「人」らしさを
理解することに重点をおいています。

相手のペースに合わせて、安心してお話し
してもらえるように心がけています。



セブンイレブン店長による 「誰もが安心してお買い物ができるようにするために」

みんなで温もりのある街、
助け合えるつながりをつくる



認知症
サポーター
養成講座
の開催

日々の
見守り



市とコンビニの協定内容

- ① SOSネットワークの協力
行方不明となった高齢者や障害児(者)の捜索協力(各店舗に防災ラジオを貸与し、従業員や来店者に情報提供)
- ② 認知症に対する正しい知識の普及・啓発
オーナーなどを対象に、市が実施している認知症サポーター養成講座受講
- ③ 高齢者等の見守り・安否確認
店内で物品の販売等の際に高齢者の見守りや安否確認
※セブンイレブンはセブンミール配達時も実施
- ④ 振り込め詐欺などの被害の恐れがある高齢者がいた場合に声かけ

川西市認知症地域資源ネットワーク構築事業 報告会を開催して・・・

コロナ禍で地域活動ができていないところも多くありました。

今回、コロナが落ち着き地域の活動も再開した頃での報告会の開催となりました。

発表者の方はもちろん、来場された方も「他地域の活動を実際に聞くことができてよかった」「自分の地区でもこんな活動したい」等の感想をいただきました。今後の地域活動への参考にしていただけたようです。

報告会を開催してよかったと思えました。

認知症地域支援推進員としての思い

認知症になっても住みやすいまちづくりを目指すためには

地域に居場所があることが重要！

そのために

認知症地域支援推進員として

これからも地域での活動場所を継続できるように**後方支援**と**新たな活動**を作り出すために、認知症の当事者はもとより地域住民の方々と一緒に取り組んでいきます！

令和4年度

三田市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：4名
- 2 認知症地域支援推進員の役割

認知症の人への効果的な支援を行うために、医療、介護及び生活支援を行うサービスが有機的に連携したネットワークを形成し、医療と介護の連携強化や地域における支援体制の構築を図る。

(令和4年度三田市認知症施策推進事業業務委託仕様書より抜粋)

- ①地域包括・高齢者支援センターの職員の対認知症ケアのスキル向上及び認知症ケアに携わる多職種協働のための研修事業
 - ア.認知症疾患医療センター等と連携して、認知症ケアに関する講習等の企画・実践
 - イ.認知症ケアにおける多職種協働の重要性等を習得する認知症多職種協働研修を開催

報告者氏名:寺坂梨沙 池田聡美

②認知症関係の事業を実施する関係機関・団体等との連携

ア.認知症疾患医療センターの機能への参加

イ.認知症疾患医療センターとの情報交換

ウ.認知症疾患医療センターが開催する医療連携協議会への参加

エ.市医師会など関係機関とのネットワークの構築

オ.かかりつけ医、サポート医、専門医療機関との連携

カ.介護保険サービス事業所等との連携

キ.関係機関への広報

③地域の実情に応じて認知症の人やその家族を支える事業の実施

ア.もの忘れ相談の実施

イ.認知症の人及びその介護者等を支援するための「つどいの場（認知症カフェ）」づくりや交流会開催の検討

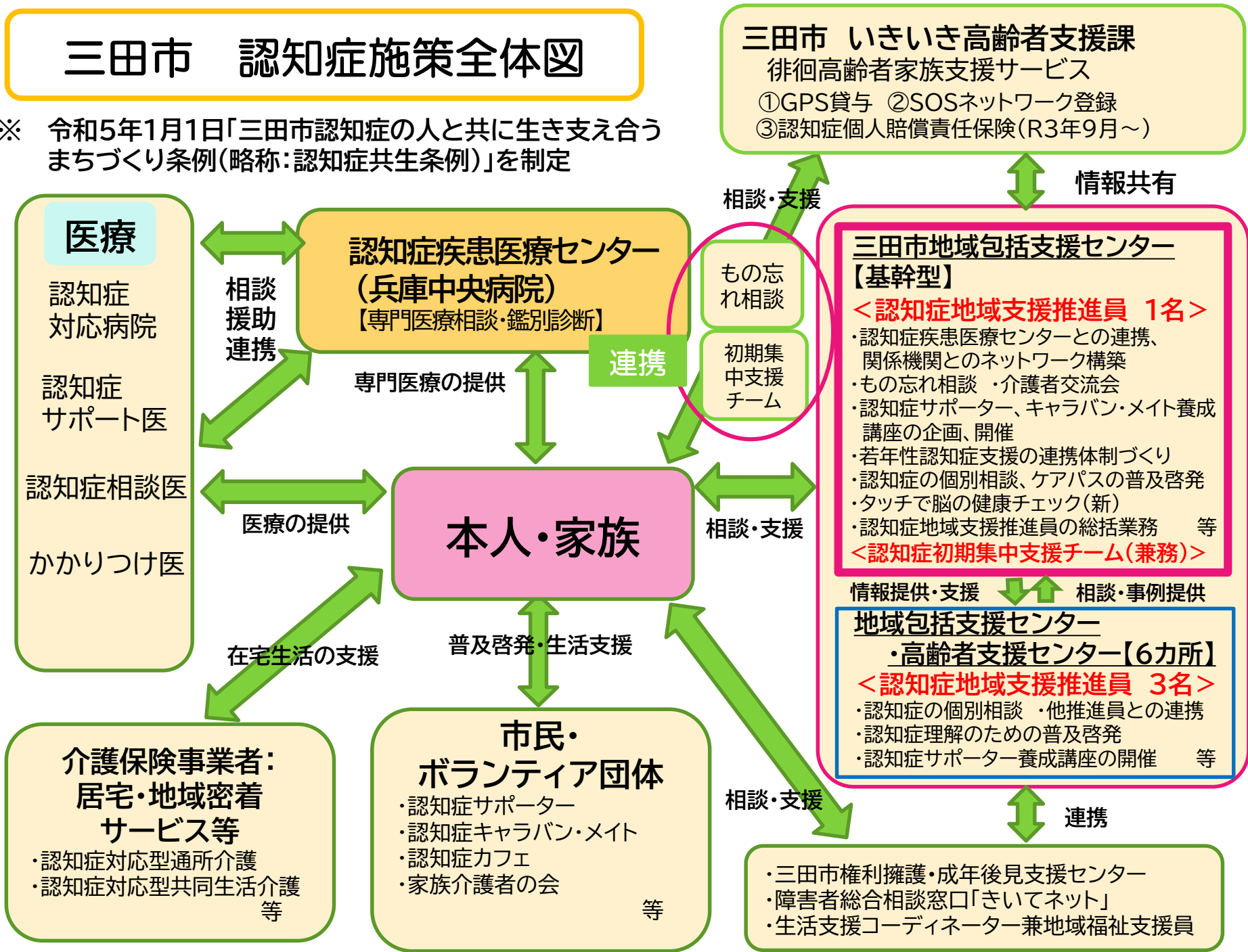
ウ.若年性認知症の人への適切な支援の検討、実施

④その他

- 認知症に関する正しい知識の普及啓発、地域支援体制構築等の企画調整
- 認知症ガイドブック（ケアパス）の有効活用のための普及啓発及び改訂の検討 等

三田市 認知症施策全体図

※ 令和5年1月1日「三田市認知症の人と共に生き支え合うまちづくり条例(略称:認知症共生条例)」を制定



標題 三田市における認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

認知症サポーター養成講座

令和4年度 認知症サポーター養成状況

対象者	人数
小学校	662
中学校	0
高校	15
専門学校	19
企業・事業所	22
民生委員	44
地域住民	214
行政	29

合計1,005名

- 生活支援コーディネーターと推進員が連携して市内学校へ講座開催を提案。行政からは教育委員会を通じて養成講座を周知してもらい、新たなキッズサポーター誕生につながった。(R3年度68名 ⇒ R4年度662名)

- 認知症について家族で学びを深める機会づくりとして、「**家族向け認知症サポーター養成講座**」を夏休みに初開催。受講することで夏休みの研究作品が仕上がるようにワークショップ形式をとり小さな子も楽しく学べる工夫を行った。

- 認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域ぐるみの見守り支援につなげることを目的に事業所向け「三田市認知症サポーター」ステッカーを作成し受講した事業所へ配布している。



標題 三田市における認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

キャラバン・メイトの育成

キャラバン・メイトさんの声

- ・キャラバン・メイトにはなったけれど認知症のことを講座で話せるか心配…。
- ・自分で講座を展開するのはハードルが高い。何を話してよいのかわからない。
- ・他のメイトさんはどんな感じで講座をされているのかな？

➡ **メイト活動者が年々減少** ☹️



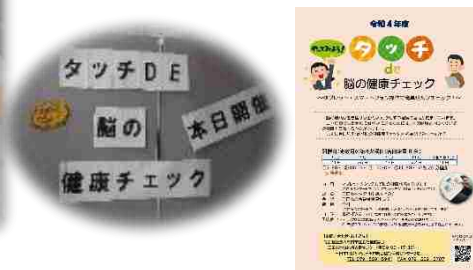
キャラバン・メイト活動者を増やして普及啓発活動を活発にしたい



【対策】

- ・毎年サポーター養成講座を行っている高校での講座展開を目標に、講座の組み立て方について勉強会を実施。
⇒参加者から高校での講座実践希望あり！
- ・勉強会にあわせてメイトの交流会を行い、ともに頑張る仲間づくりにつながった。

認知症にやさしい図書館



MCIの早期発見・認知症予防の啓発にむけて、今年度よりタブレットを使用した脳の健康度測定を開始。

図書館でのイベントにあわせて出張版「タッチで脳の健康チェック」を2日間開催。42名もの方にご参加いただきました！



- 図書館スタッフ全員が認知症サポーター養成講座を受講していることから、推進員より「認知症にやさしい図書館」について打診。9月のアルツハイマー月間に市内2カ所の図書館にて同時開催。
- 認知症啓発ポスターの展示、タブレットを使用した脳の健康度測定「**タッチで脳の健康チェック（出張版）**」をあわせて開催。



認知症啓発展示

「安心して認知症になれるまちさんだ」

をテーマに開催



市民センター



市役所

- アルツハイマー月間である9月に市内5カ所で同時開催。
- キャラバン・メイト主体のサークル活動グループ「オレンジパンダ」のメンバーとともにポスター作成。
- ポスター展示では「オレンジパンダ」のキャラクター投票も行いました。



図書館



安心して認知症になれるまちさんだ

「認知症となった時に様々なことをあきらめるのではなく、胸をはって周りに伝えられる三田になってほしい」という思いがテーマにこめられています。

県庁ロビー
三田市在住で
「ひょうご認知症
希望大使」である
古屋さんのポスターを
展示しました！



推進員活動を通して感じたこと

- ・「認知症を周囲に知られたくない、恥ずかしい」、「認知症になりたくない、認知症になったらおしまい」といった声がまだまだ多く聞かれる現状がある。認知症とともに歩む・認知症の方が笑顔で過ごせる三田市を目指して、今後も様々な世代に向けて認知症理解のための普及啓発を継続していきたい。
- ・キャラバン・メイトの「こんなことができたらいいな…」といった声からメイト主体のサークルグループ立ち上げに至った。認知症当事者とサポート側双方向からの「こんなことをやってみたい」を拾い上げ、マッチングしていくことが推進員の役割であり、ひいてはチームオレンジへの発展が期待できるのではないかと感じた。

今後について

- ・R5年度より市内地域包括支援センター全6か所に各1名の推進員が配置される。各推進員が協働して認知症共生社会のしくみづくりに臨めるよう関係性の構築を図る。
- ・三田市地域包括支援センターLINE公式アカウント「オレンジライン」始動。もの忘れ相談、タッチで脳の健康チェックの予約受付や認知症ケアパス、認知症チェックシート、脳トレ&エクササイズといった掲載メニューのほか、認知症に関する身近な情報やお役立ち情報を定期的に配信していく。



令和4年度 猪名川町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：3名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・キャラバン・メイトとの認知症カフェの企画・運営
 - ・脳の健康教室等の認知症予防事業
 - ・認知症の人の社会参加支援、地域での居場所作り支援
 - ・認知症サポーター養成講座、行方不明者捜索訓練の企画・運営
 - ・猪名川町でのチームオレンジの模索

報告者氏名

菅野淳子、江原有紀（猪名川町地域包括支援センター所属・認知症地域支援推進員）

田中 春菜（生活部保険課介護保険担当）

猪名川町 認知症施策全体図

	発症前	軽度認知障害 (MCI)	初期	中期	進行期	終末期
	物忘れはあるが、日常生活は自立。	認知症の疑いはあるが、金銭感覚や買い物、日常生活は自立。	金銭感覚や買い物のミスはあるが日常生活は自立。	服薬管理、電話訪問対応が困難。誰かの見守りがあれば日常生活は自立。	着替えや食事・排泄がうまくできない。日常生活に手助け・介護が必要。	ほぼ寝たきりで意思疎通が困難。常に介護が必要。
相談 家族支援	民生委員 ・ 福祉委員 ・ 地域包括支援センター ・ ケアマネジャー					
	認知症相談センター ・ 認知症サポーター ・ 認知症カフェ ・ 初期集中支援チーム ・ 介護ほっこりおしゃべり会 ・ 認知症地域支援推進員					
見守り 安否確認 (緊急時)	安心キット ・ 民生委員 ・ やすらぎ支援員 ・ ご近所の方 ・ ご家族 ・ 福祉委員					
	高齢者見守り登録 ・ QRコードシール ・ SOSネットワーク ・ GPS貸与					
	緊急通報システム ・ 消防 ・ 警察					
医療	認知症検診					
	かかりつけ医 ・ かかりつけ歯科医 ・ かかりつけ薬局 ・ つながりノート ・ 認知症専門医					
予防・交流 活動	健康長寿体操教室 ・ 脳の健康教室 ・ もの忘れ相談プログラム ・ ふれあいサロン ・ 老人クラブ					
役割	シルバー人材センター ・ 家での役割 ・ 地域での役割					
生活支援 身体介護	地域包括支援センター ・ ケアマネジャー ・ 協会の会員 ・ 介護保険サービス ・ やすらぎ支援員					
住まい・施設 居宅系サービス	住宅改修 ・ 住宅改造	グループホーム ・ 軽費老人ホーム(ケアハウス) ・ 有料老人ホーム ・ 特別養護老人ホーム ・ サービス付き高齢者向け住宅				
介護サービス	デイサービス ・ デイケア ・ 訪問介護 ・ 訪問看護 ・ ショートステイ					
権利を守る	消費生活相談 ・ 成年後見相談 ・ 日常生活自立支援事業					
啓発	認知症サポーター養成講座 ・ 認知症キャラバン・メイト養成研修 ・ 認知症講演会等					

認知症を起点とした居場所の取組みについて

居場所の取組み①

通常のアレンジCafe

ショッピングモールの空き店舗活用
年10回開催



出張アレンジCafe

①小規模多機能型施設と青空で開催

②ショッピングモール内の薬局と

③地域の喫茶店で自治会・福祉委員と



効果

①専門職・ボランティアが地域での活動の機会となっている。

- ・老健のセラピスト
- ・地域活動の栄養士
- ・傾聴ボランティア
- ・就労B型でのコーヒー販売
- ・キャラバン・メイト



②地域住民が相談を意識せず参加できる。



課題

当事者や家族が気軽に来やすい場所にはなっていないのでは？



⇒毎年、関係者での意見交換会行っており、
R5年度も意識して取り組んでいく予定



居場所の取り組み②

認知症予防教室「脳の健康教室」自主運営支援

- ・中学校区3か所一長い所で6年目！！
- ・サポーター養成しての自主ボランティアグループ化
- ・公文式を取り入れた30分読み書き

30分体操レク

30分おしゃべりタイム

1回1時間半の内容で毎週開催





最近は、認知症の診断あって、介護認定ある方も受け入れている。



最大の効果 サポーターと受講生お互いのフレイル予防
仲間作りの場となっている。

スゴイところ💡

事業とボランティアのコラボで長く継続していること♥♥

認知症にやさしいまち から 認知症とともに暮らすまち 猪名川町へ



最後に・・・

— 今後に向けて —

専門職・ボランティア・住民と一緒に様々な居場所の取り組みを模索していきます。



令和4年度 明石市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：2名

2 認知症地域支援推進員の役割

認知症サポーターの養成

認知症カフェ等への取り組みの支援

認知症・若年性認知症家族会への支援

認知症初期集中支援事業の実施

市の認知症施策への協力

など

報告者氏名： 市町村担当者 中谷 希実

地域支援推進員 川床由季・木ノ下久子

【明石市】認知症施策全体図

認知症の理解啓発・
地域支援体制の充実

- ・ 認知症あんしんまちづくり条例
- ・ あかしオレンジサポーター制度
- ・ 明石市認知症あんしんネットワーク会議
- ・ 認知症ケアパスの活用

早期の気づき・
早期支援の推進

- ・ 認知症早期支援事業
- ・ 初期集中支援事業
- ・ 精神保健相談
- ・ 認知症相談ダイヤル

権利擁護・
在宅生活の支援

- ・ 認知症あんしんプロジェクト
- ・ 診断費用の完全無料化
- ・ 認知症サポート給付金の支給
- ・ あかしオレンジ手帳とあんしんチケットの配付

若年性認知症施策の
推進

- ・ 若年性認知症ケアパスの作成等、若年性認知症の周知啓発
- ・ 若年性認知症家族会等への支援

地域共生社会実現にむけた取組

認知症家族会への支援



認知症家族会
色々な思いを話ませんか…?

「よう話してくれたなあ」
「ほんまに精神的にきつかったわ」

あった会
対象 家族と本人
日時 第2金曜日 13:30~15:30
場所 主にアスピア北館8階
問合せ先 明石市高齢者総合支援室 078-918-5288

介護ボランティアたんぼぼ
対象 家族と本人 (本人は和室でゆっくり過ごすことができる)
日時 毎週木曜日 10:00~15:00
場所 明石市総合福祉センター 3階
申込先 明石市社会福祉協議会 078-924-9105

男性介護者のかたり場
対象 本人と男性介護者 (本人は和室でゆっくり過ごすことができる)
日時 不定期
場所 不定
申込先 明石市社会福祉協議会 078-924-9105

若年性認知症家族会 ひまわり
対象 若年性認知症の本人と家族
日時 第1火曜日 10:30~12:00
場所 アスピア北館8階 認知症相談ダイヤル
申込先 078-926-2200

ひまわりケアサロン
対象 若年性認知症の本人と家族
日時 第4土曜日 10:00~12:00
場所 明石市総合福祉センター(新館)
申込先 認知症相談ダイヤル 078-926-2200

みんなで支えたい

背景画:認知症の方のご家族R.Cさん作
作成:明石市社会福祉協議会 地域総合支援センター本館

開催状況は、新型コロナウイルス感染状況等にて変更となりますので、最新の開催状況を申込時などにご確認下さいようお願いいたします。

< 男性介護者のかたり場 > (不定期開催)

男性特有の悩みを打ち明けたり介護方法を学ぶ場。開催に向け企画・運営や啓発活動を行った。男性同士の会話が弾み、定期開催を望む声が多数あった。今後は地域の専門職や住民、ご家族が主体的に企画・参加できるセルフヘルプグループ化を目指す。

< 認知症家族会の啓発ポスターの作成 >

背景は認知症のご家族に協力を得て、家族会情報の一覧ポスターを作成した。ケアマネジャーなどの専門職や広く市民に啓発。啓発により、家族会参加者が増加し、家族会の情報を把握しやすくなったという意見があった。

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

認知症の正しい理解を広めるための普及啓発

<明石市の現状> ※R5年3月末時点

認知症サポーターとキャラバン・メイト数 **21,465人 (7位/県)**

認知症サポーターとキャラバン・メイト1人当たり相当高齢者人口

3.7人 (県下ワースト4位タイ)

★R4年3月末時点ではワースト3位

- ◆認知症サポーター養成講座で使用するパワーポイントの標準教材や、開催手順確認シート等を行政と協力して作成
- ◆行政が行うキャラバン・メイト養成研修に講師として協力
- ◆キャラバン・メイト、認知症カフェ代表者、シルバーサポーター（明石市独自の認知症ステップアップ講座受講者）と意見交換、交流の場として「オレンジ交流会」を行政と企画、開催。

効果

- ・効率よく養成講座の開催ができるようになった。
- ・キャラバン・メイトが自立して活動しやすい体制づくりができた。

課題

- ・キャラバン・メイト同士のネットワークづくりを行政とともにやる。
- ・キャラバン・メイトの希望と講座のマッチングを効率よく行う方法を行政と検討する。

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

認知症の人本人の社会参加・発信への支援 (あかしオレンジピアサポーター制度)

認知症へのネガティブなイメージを払拭し、
認知症と診断されても自分らしく暮らすため、
認知症の方がいきいきと暮らす姿を発信するという取り組み



- ◆行政と共に制度設計
- ◆本人の希望や思いを聞き取り、ピアサポーター同士が会いたいという思いを実現するため、本人ミーティングを開催。
- ◆当日はピアサポーター同士が楽しく談笑し、ピアサポーターとしてやってみたいことを話した。

効果

- ・当事者同士の希望を叶えることができた。
- ・本人発信の目的や重要性を地域包括支援センター職員に伝えることができた。

課題

- ・ピアサポーターの活動を広く啓発
- ・ピアサポーターとともに当事者向けケアパスの作成

最後に・・・

**悩みを抱える方が孤立しないようなまちづくりや
認知症と診断されても希望をもって生活し
助け合いながら自分らしく暮らせるまちづくりを
認知症地域推進員として進めていきたい**

令和4年度 加古川市 認知症地域支援推進員活動報告

加古川市の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：6名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 担当地域内の認知症の人やその家族を支える取組みを進める。
 - 認知症早期発見・早期受診、早期ケア体制を実現するため、センターやサロン等で早期発見チェックを実施し、疑いのある人にかかりつけ医や認知症相談員への受診を勧める。
 - 認知症の人や家族が安心して生活できる地域づくりのため、行政、認知症疾患医療センター、医療機関、介護事業所等の関係機関と連携を図る。

報告者氏名：

高齢者・地域福祉課

松尾 優

2 認知症地域支援推進員の役割

地域包括支援センター のぐち 阪本 由美子

【加古川市】認知症施策全体図

項 目	内 容
早期発見、早期受診、早期ケア体制の充実	認知症早期発見チェックの実施
	認知症初期集中支援チームの設置
認知症地域連携体制の強化	認知症地域支援推進員の配置、連絡会の開催 加古川認知症連携協議会への参加 東播認知症教室の支援 認知症疾患医療センターとの連携
地域の人や家族を支える地域づくり	認知症サポーターの養成支援 認知症キャラバン・メイトの活動支援（連絡会・養成研修）
	認知症の人や家族、サポーターの会などへの支援 認知症カフェへの支援
	認知症なんでも相談会の開催
認知症見守りネットワークの充実	認知症見守りSOSネットワークの実施 見守りカメラの利用促進
若年性認知症施策の整備	若年性認知症の人や家族、サポーターの会などへの支援
認知症に対する正しい知識や理解の普及啓発	認知症イベント（講演会・映画会等）の開催

標題⑤ 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発



認知症地域支援推進員として取り組んだこと・・・

① 東播認知症教室の普及啓発

〈課題〉

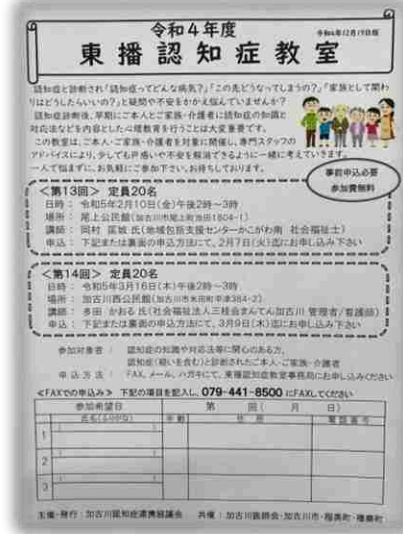


- ・認知症当事者やご家族を含め、一般住民にも、認知症に関する普及啓発がしたい
- ・認知症教室のニーズはあるが、世代幅広く視聴できるツールが必要
- ・東播認知症教室の参加者が、毎月5～10人程度で低迷

〈工夫したこと〉

YouTube配信予定
 BANBANテレビ(加古川市ケーブルTV)放映
 認知症教室の講座内容のシリーズ化
 参集型での個別相談は継続

→具体的なアドバイスができる場を大切にしたい



【東播認知症教室 改訂会議】

加古川市高齢者地域福祉課から声上がり、低迷している「東播認知症教室の普及啓発」に向けて課題集約し、地域の方が認知症の理解をもっと深めていただけるプロジェクトを加古川認知症連携協議会にて発足

構成チームメンバー

- ・加古川認知症連携協議会(主催) ・認知症疾患医療センター いるか診療所・医師会 ・播磨薬剤師会
- ・行政(加古川市、播磨町、稲美町) ・兵庫県介護支援専門員協会南播磨支部 ・訪問看護ステーション連絡会
- ・地域包括支援センター認知症地域支援推進員 (加古川市、稲美町、播磨町)

加古川認知症連携協議会、東播認知症教室改訂会議において議題に上げ検討を重ねる

内容がパターン化してるので
アレンジできないかな？

若い世代の方にも知ってもらえないかな？

配信時間が長いと観てくれないよね・・・



参加人数が少ないね・・・満足度が低い？
時間の関係で教室に参加できない人もいますよ

試しに教室をビデオで撮影してみよう！

【東播認知症教室 改訂会議】

BANBANテレビ放映が決定し講座内容のシリーズ化を検討

1コマ15分・4テーマ作成し週ごとに放送 作業チームに分かれてシナリオ構成・出演

- ① 認知症について (出演：認知症疾患医療センターDr)
- ② 認知症の方への対応 (出演：兵庫県介護支援専門員協会南播磨支部)
- ③ 認知症で処方される薬 (出演：播磨薬剤師会)
- ④ 介護保険制度と認知症の方が利用できるサービス(出演：加古川市介護保険課)



加古川市公式YouTubeにも掲載予定！

東播認知症教室

その1「認知症について」
いるか心療所 院長 九鬼克彦 先生

その2「認知症の方への対応」
兵庫県介護支援専門員協会 介護相談室あえる 花田厚樹 さん

その3「認知症で処方される薬」
播磨薬剤師会 あゆみ薬局 小野頼子 先生

その4「介護保険制度と認知症の方が利用できるサービス」
加古川市介護保険課 中野佳代子 さん

BAN-BAN テレビ 11チャンネル	BAN-BAN テレビ CO18チャンネル
月～金 6:45～	月～日 12:00～
月～木 20:30～	月～金 10:45～
土 18:45～	
土・日 6:45～13:15～	

提供：加古川認知症連携協議会
認知症疾患医療センターいるか心療所

ウェブテレビ加入の視聴には
フリーダイヤル 0120-34-1442
番組の問い合わせ、お申し込みは テレビ制作課
TEL:079-421-3706
FAX:079-420-3735



フリップを作成し撮影したBANBANテレビ放映の様子



② 認知症カフェ・認知症イベント コロナ禍での再開

〈目的〉 ・コロナ禍が落ち着いてきた現在、地域活動の再開において、新たに地域住民に向けて認知症への理解を深める機会を持つ



認知症に興味関心のある方を対象に・・・

加古川市認知症イベント〈認知症の人や家族にやさしいまち かがわ2022〉

R4年11月19日(土) 3年ぶりの開催 190名の方が参加！

・映画上映会「ばあばは、だいじょうぶ」

・認知症・介護なんでも相談会

☆専門職による個別相談や脳の健康チェック(認知症の簡易スクリーニング)



市内の認知症地域支援推進員も集結し、認知症・介護なんでも相談会に参加
脳の健康チェックでは多くの方が希望され、認知症の早期発見や早期受診へ繋がるよう相談・助言を行いました。

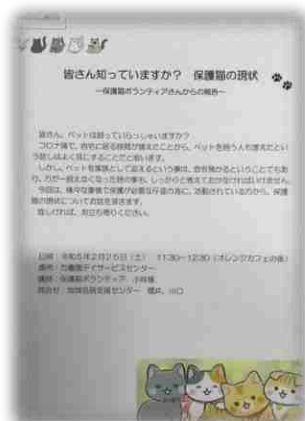


認知症カフェの取り組み

市内ではコロナ禍で休止していた認知症カフェも徐々に再開、顔を合わせて笑って集える場の素晴らしさを実感しています



参加者手作りの作品展
ストーンアートや竹細工など
素敵な作品を鑑賞
12月はハンドベル演奏も♪



保護猫ボランティアによる講話
高齢者のペット問題は地域でも
考えるべき課題です



認知症サポーター養成講座を受けられた方々がボランティアとして活躍されています！



認知症地域支援推進員活動の今後の課題

認知症の正しい理解を広めるための普及啓発において

- ◆ チームオレンジの立ち上げ→居場所作り・ステップアップ研修の企画
- ◆ 若年性認知症勉強会 家族会との交流
- ◆ 本人ミーティング・家族ミーティング開催
- ◆ 東播認知症教室のさらなる普及啓発・PR方法〈配信と参集型ハイブリッドでの開催〉
- ◆ 幅広い世代への認知症サポーター養成講座開催

最後に・・・認知症地域支援推進員としての思い

認知症地域支援推進員研修で何度も言われた言葉が「推進員ひとりでは何もできない・・・仲間を作ること」です。昨年度、認知症地域支援推進員として、行政や様々な関係機関と一緒に事業に取り組み、作業チームの一員としてツール作成や普及啓発に携われたことで、地域の方にもっと認知症についての正しい理解を深めてもらいたいという思いが強くなりました。認知症の方の声を聴く大切さや、声を届ける役割の大切さ、仲間づくりの大切さを実感し、認知症にやさしい地域づくりに今後も取り組んでいきたいと思えます。



令和4年度 高砂市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 5名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・医療や介護サービス、地域の支援機関をつなぐ
 - ・認知症の人やその家族を支援する相談業務
 - ・認知症に関する社会資源等の情報収集及び提供
 - ・地域包括支援センター職員に対する認知症対応の助言

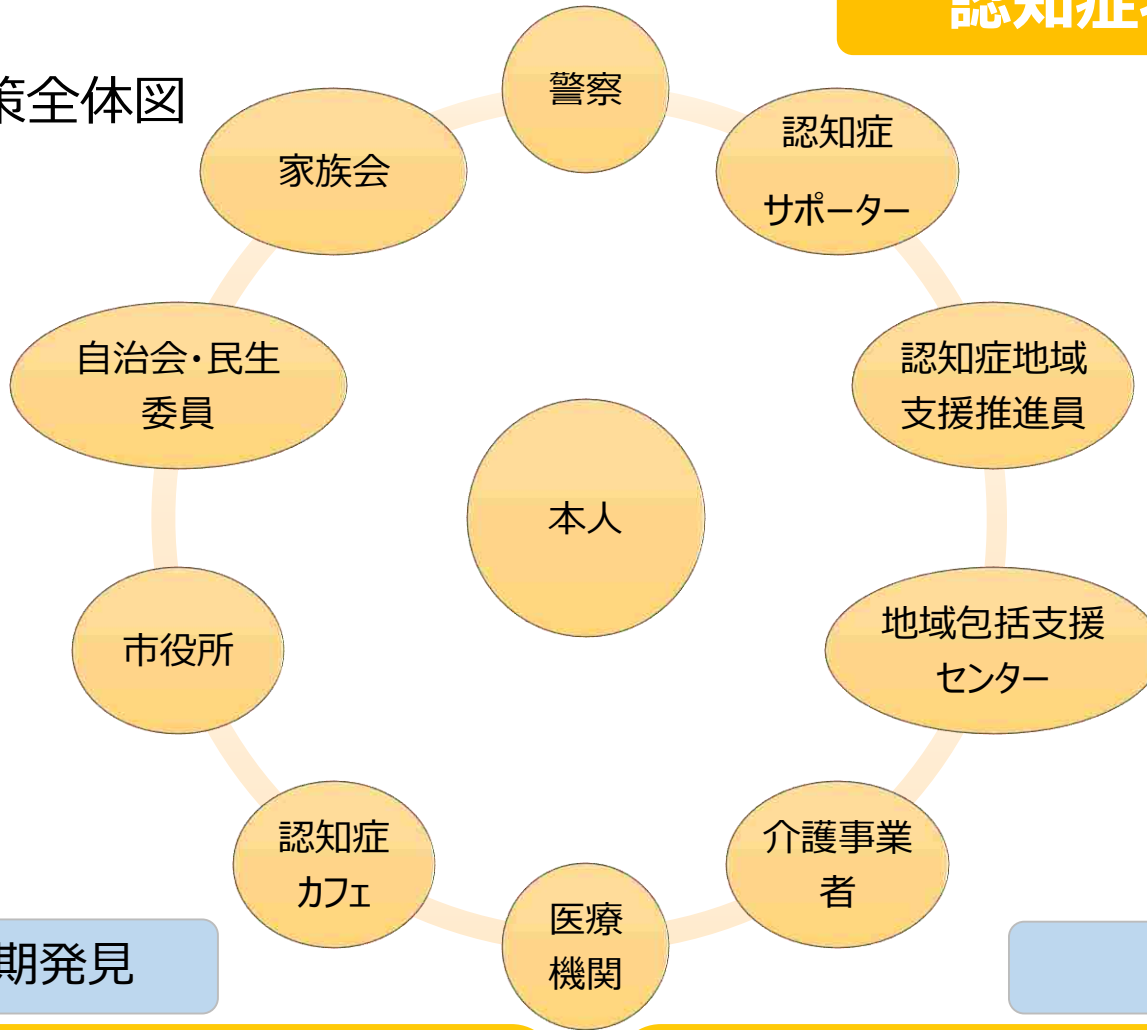
報告者

認知症地域支援推進員：高砂市地域福祉課
高砂市地域包括支援センター

桐谷 久美子
南原 夏子

認知症ネットワーク

高砂市 認知症施策全体図



予防・早期発見

- ・市のHPの認知症簡易チェックサイト
- ・あたまの健康チェック
- ・認知症相談センター
- ・認知症初期集中支援チーム

地域連携

- ・高齢者等見守り・SOSネットワークの推進
- ・認知症ケアパスの作成
- ・認知症サポーター育成
- ・キャラバンメイト連絡会の開催

標題 高砂市におけるチームオレンジの取り組みについて

令和4年度の活動経過

4月	地域包括支援センターにチームオレンジコーディネーターを配置 令和4年度の目標として、2地区の立ち上げを掲げる
5～6月	立ち上げ支援として、モデル地区を選定し、A・B地区に活動提案。 チームの編成支援・関係機関との連携を図る。
7月～10月	A地区ステップアップ講座開催。 第1号たかさごチームオレンジとして登録 → 市長による登録証の授与式
10月	市全域版のステップアップ講座開催
令和5年2月	B地区ステップアップ講座開催 たかさごチームオレンジとして登録



チームオレンジコーディネーターの活動

- ・地域の通いの場やいきいき百歳体操、認知症カフェに出向き、認知症の方の支援ニーズや社会資源の実態把握
- ・チームオレンジとして活動が見込まれる住民サポーターへの立ち上げ支援
- ・ステップアップ講座の企画・開催
- ・チームオレンジ登録後は毎月訪問し、チームオレンジの運営のバックアップ



「たかさごチームオレンジ」登録要件

- ①だれでも参加できる。（認知症の人もチームの一員として参加できること）
- ②月に1回程度の参加者の交流がある。
（月1回程度はチームメンバー同士の交流があること）
- ③認知症を正しく理解して、応援してくれる人がいる。
（ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれていること）
- ④認知症の人、またその家族の困りごとの手助けができる。
（認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援できる仕組みとなっている）

A地区 シニア春日野

老人クラブのグループで、いきいき百歳体操や行事を活発に行っていた。

認知症サポーター養成講座を受講後、グループに所属している方が、行方不明になり、協力して捜索。その後、SOSネットワーク模擬訓練も実施。



登録後

一人暮らしで認知症の疑いがある方の、見守り・行事の誘い出し等の声掛けをしている

B地区 チームロバ

住民グループで、地域の集会所でいきいき百歳体操、茶話会等を行っており、日頃から地域の見守りを行っている。

認知症サポーター養成講座も受講済み。近くの特養が認知症カフェを開催。



登録後

自治会、老人会、民生委員も参加。チームオレンジの活動を通じて、認知症になっても安心して暮らせる地域を目指す

**効果 ふだん、なにげなく行っていた見守り活動、
チームオレンジ登録を機に、認知症に対する意識がさらに高まった**

課題



- ・ 令和4年度は地区単位の小さなグループを発掘してきたが、地区にこだわらない新たな形のチームオレンジを模索していきたい。
- ・ チームオレンジコーディネーターが兼務であり、地域に出向く時間の確保が難しい現状があるが、地域資源の情報を素早くキャッチし、新たなチーム発掘を目指したい。

最後に・・・

市：地域の強みである“昔からの顔なじみの関係”を活かし、チームオレンジの立ち上げが実現した。地域福祉計画に掲げる「一人ひとりが思いやり心ふれあう ぬくもりのまち」をめざし、地域を構成する人たちとともに、当たり前前に支え合える社会づくりを続けていきたい。

包括：地域包括支援センターの主任という立場なので、認知症地域支援推進員としては、主にチームオレンジコーディネーターのサポート及びケアパス原案作成を担った。

現場の推進員（コーディネーター）は他の業務が忙しい中、認知症の取り組みを積極的に行っているため、推進員が活動しやすいようなサポートや仕組み作りを行っていききたい。また、推進員の業務を見える化を心掛け、推進員の活動をアピールしていききたい。

令和4年度 【稲美町】認知症地域支援推進員活動報告

【稲美町】の認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割：認知症施策全般担当

窓口相談

認知症相談窓口連絡会の開催

もの忘れ健診の実施

認知症教室開催

認知症予防・理解等の啓発業務

認知症サポーター養成講座事務

キャラバンメイト連絡会の開催

チームオレンジの立ち上げ支援

認知症関連の連携会議への出席

認知症家族会の支援

認知症カフェの支援

認知症初期集中支援推進事業

認知症高齢者等SOSネットワーク事業

認知症ケアパスの作成・普及

本人ミーティングの開催

報告者氏名：森本 実佳

【稲美町】認知症施策全体図

予防	<ul style="list-style-type: none">■健康教育■介護予防事業（いきいきサロン・いきいき広場・いきいきミニ広場）
早期支援	<ul style="list-style-type: none">■もの忘れ健診■認知症相談窓口・継続訪問支援（在宅介護支援センター）■東播認知症教室■介護予防事業（いきいきサロン・いきいき広場・いきいきミニ広場）■本人ミーティング■認知症カフェの支援
家族支援	<ul style="list-style-type: none">■認知症相談窓口（3箇所）■東播認知症教室■継続訪問支援（在宅介護支援センター）■家庭介護教室■認知症家族会の支援■SOS見守りネットワーク徘徊高齢者家族支援サービス■認知症高齢者等個人賠償責任保険事業
地域連携	<ul style="list-style-type: none">■認知症サポーター養成■地域見守り活動事業■認知症カフェ支援■認知症相談窓口連絡会■加古川認知症連絡協議会等連携会議への参加

【稲美町】R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告 認知症の人本人の社会参加・発信への支援

稲美町で初の小学生キッズサポーター129名を養成



コロナの感染拡大により
急遽リモートで実施。
当事者が子どもたちから
の質問に答える



介護者による認知症
絵本の読み聞かせ

中学生認知症サポーター養成講座にも参加し 145名養成

認知症になってもちょっとしたサポートを受けながら仕事も趣味も
続けている様子をお話をして頂きました。



趣味の傘踊
りを動画で
紹介



花のお仕事
紹介



作った花を
孫がアレン
ジメント

～小学生感想文～

・認知症になっても、周りのサポートがあれば今までやっていた事などを続けられるということを知りました。私は認知症の方が少しでも生きやすい世の中になるようになんでもいいので協力していきたいです。

・認知症を身近に感じ、病気として扱わず、普通の人と思って接したいです。また、認知症の人とのかかわりを大切にし、自分の家族がもし認知症になったら不安にならないようにしてあげたいです。

～中学生の感想文～

・今まで認知症の人は常に介護が必要と思っていたけど、講座にきてくれた認知症の人は自分なりの楽しみを見つけていて普通の人と何も変わらない生活をしていてすごく驚きました。ずっと偏見だったけど、なってしまったことを暗く重くみるのではなく、明るくポジティブに受け止める大切さを学びました。

～保護者の感想文～

・正直認知症のことはあまり意識したことがなかったですが、近い将来のためにももっと向き合っていないと、なってみてからでは遅いと思うので、子供同様、私たちも学んでいかなければいけないと思いました。

・まずは認知症について正しく理解することの大切さを感じました。環境や周囲の接し方で症状も変わるということから、当事者がどのような思いを持っているか寄り添い見守る温かい環境づくりのためにできることから取り組みたいと感じました。



こども園で認知症カフェ

こども園で実施してる母里カフェと連携し、認知症カフェを開催。子どもと認知症当事者が手遊びや歌、折り紙などの遊びを通してふれあいを行っている。



当事者の方が育てた花をプレゼントされ、保育士がアレンジメント

当事者の方が育てた花をプレゼントされ、作品を作る園児

本人ミーティングで認知症カフェの名称変更



カフェいこいご案内

カフェいこいは、認知症の方やご家族、地域の方、介護や医療の専門職の方などが、コーヒーやお茶を飲みながら、お互いの悩みを話したり、情報交換などをしながら、楽しく交流できる場所です。ちよこっとお茶を飲んで、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごしませんか。誰でも気軽に参加できるので、お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

カフェの名称	開催場所 問合せ先	開催日時	活動内容
カフェ愛	グループホーム琴音 函安 1256 079-492-7610	毎月第4日曜日 午前10時～12時(正午)	健康体操など介護予防 認知症予防の相談 認知症の相談
カフェ結	グループホーム国岡 岡岡 1-117 079-492-1088	毎月第2日曜日 午前10時～12時(正午)	健康体操やリズム体操 茶話会 認知症等の相談
げんきかい	中村 1212 079-492-9393 藤本 なつえ	毎月第1木曜日 午後1時30分～午後3時	前半はレクリエーション 後半は茶話会
なんなん亭	天満寺小学校なんなん広 場ランチルーム(森安81) 079-492-1257 大西 鏡美	毎月第3金曜日 午前10時～12時(正午)	茶話会 認知症等の相談
母里カフェ	いなみ野 母里こども園 (野寺95-5) 079-495-1550 福永 美恵子	令和4年 6/23、7/28、8/25、 9/29、10/27、11/24、 令和5年 1/26 午前10時～12時(正午)	茶話会 子どもとのふれあいなど

※開催日が変更になる場合がありますので、参加を希望される場合は、まずは各カフェの問合せ先へ連絡してください。

© 問合せ：稲美町地域包括支援センター TEL 079-492-9150

本人ミーティングで、認知症カフェの稲美町版の通称名を話し合い、「カフェいこい」に決定

〈効果〉

認知症に対する偏見が、受診行動を阻んだり、周囲の目を気にして地域活動に参加できなくなることがあり、偏見をなくすことは課題の一つである。

こども時代に認知症の正しい情報を伝えることは偏見を生まず、認知症の人にやさしい町づくりの第一歩になる。子供たちは認知症の方と会う機会は少ないため、実際に認知症の方の語りや介護者の介護の様子を聞いて実践型の学びを深めることができた。「優しく接したい」と感じてくれた子どもが数多くいた。また、今まで認知症サポーター養成講座をしても参加しづらい世代の方に、子どもを通して講座の中身を伝えてもらったことで、親世代からも好評の声をいただいた。

また、支援者でも認知症カフェという名称は誘いにくいとの声があったため、稲美町の認知症カフェを総称した呼び方を当事者中心に決め、親しみやすく参加しやすい名称に改めた。



最後に・・・（今後の取組みに対する認知症地域支援推進員としての思い）

認知症当事者が人前に出て自分のことを話すというのはエネルギーがいることだが、家族やチームオレンジのメンバー、キャラバンメイトのみんなのサポートがあるので当事者の声を発信することができた。

当事者や家族もキッズサポーター養成講座や認知症カフェ等を通して社会参加の機会が増え、多くの方から感謝されることで貢献感が高まったと思われる。

認知症になってもその人らしく最期まで暮らせる町になるよう、地道に活動を続けていきたい。



令和4年度

播磨町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：1名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - ・認知症の人やその家族への支援体制の充実
 - ・認知症サポーター養成講座の普及
 - ・認知症カフェの内容充実
 - ・認知症初期集中支援チームとの連携
 - ・チームオレンジの活躍促進

報告者氏名:保険課 地域包括ケア係 井上
認知症地域支援推進員 森

播磨町 認知症施策全体図

指針	具体的な取り組み
普及・啓発	<ul style="list-style-type: none">・講演会（認知症映画会）の開催・認知症サポーター養成講座・キャラバンメイト連絡会の開催・図書館で認知症コーナーを設置・相談先の周知
認知症の早期対応の推進	<ul style="list-style-type: none">・もの忘れ健診の実施・物忘れ相談プログラム（タブレット）の公的施設への設置・認知症ケアパスの普及・認知症初期集中支援チームの設置
認知症の人や家族への支援	<ul style="list-style-type: none">・認知症地域支援推進員の配置・認知症カフェの拡大・認知症家族会の実施・介護従事者等の認知症対応力向上研修
認知症高齢者等の見守り体制の充実	<ul style="list-style-type: none">・高齢者等の見守り・SOSネットワークの普及、強化・あんしんキーホルダーの配布
認知症の人やその家族の視点の重視	<ul style="list-style-type: none">・認知症地域支援推進員活動の推進・本人ミーティングの実施

標題 地域の方への認知症啓発促進のための取り組み

認知症サポーター養成講座の積極的な実施

対象者	人数
町民向け	83名



町民向け認知症サポーター養成講座の様子

播磨町では、地域住民への認知症に関する正しい知識の普及啓発を図るため、定期的に認知症サポーター養成講座を開催しています。また、地域で認知症サポーター養成講座の開催を希望される団体等があれば、積極的に企画・開催をさせて頂いています。



播磨町内の学校の生徒を対象とした認知症サポーター養成講座の受講者数

対象者	人数
小学生	269名
中学生	336名
高校生	170名
合計	775名



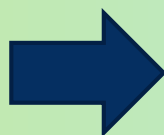
認知症サポーター養成講座の様子

播磨町では、小学生の時から認知症サポーター養成講座を実施しています。また、中学校・高校でも、養成講座を実施しています。子どもの頃から認知症について学ぶ事で、認知症の方に対して偏見を持たず、やさしい対応ができる様に取り組んでいます。来年度は、播磨町内のすべての小学校・中学校・高校で、認知症サポーター養成講座を開催できる様に取り組んでいきたいと思ひます。

認知症カフェ（オレンジカフェ）の拡大

令和3年度（2か所）

幸ちゃんカフェ
野添カフェ



令和4年度（7か所）

幸ちゃんカフェ
野添カフェ
カフェ夢の森
あっぷるカフェ
はっぴーカフェ
四つ葉カフェ
ひだまりカフェ

播磨町では、令和4年度に認知症啓発促進の拠点となる「認知症カフェ（オレンジカフェ）」を地域のみなさまの協力を得ながら、新たに5か所オープンさせることができました。認知症の方やその家族、認知症に関心のある地域住民の方々が気軽に集い、相談できる場を拡大する事で、認知症の啓発を行い、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの促進を図っています。

認知症カフェ（オレンジカフェ）の様子



各オレンジカフェでは、茶話会やミニ講話、様々なアクティビティを実施し、認知症の方でも気軽に参加し語り合える雰囲気づくりを心掛けています。また、参加者同士の交流が積極的にできる様に工夫もされています。

本人ミーティング



認知症カフェで本人ミーティングを実施しました。その中で、参加者からの「新型コロナウイルスのため、外出する機会が減った」、「みんなで外に散歩に出掛けたい」という声をきっかけに、ノルディックウォーキングをしながらの散歩を企画しました。



【チームオレンジはりま】の活躍

チームオレンジはりまのメンバー構成



チームオレンジのメンバーが
福祉用具体験会を企画・開催

ボランティア	18名
事業者	10名

認知症サポーター養成講座やステップアップ研修で認知症の方への対応力を身に付けた地域の方々が、【チームオレンジはりま】のメンバーとして認知症カフェの運営や認知症の啓発活動のボランティアとして活躍をされています。

今年度は、認知症の方にでも使いやすい福祉用具の提案を、福祉用具業者とタッグを組んで福祉用具体験会という形で実施しました。

最後に・・・

今年度は、認知症になっても気兼ねなく集える場であり、地域の方が認知症のことを身近に感じてもらえる場として、認知症カフェ（オレンジカフェ）を地域の方々のご協力の下で増やす事が出来ました。それに伴い、チームオレンジのメンバーも増え、各カフェの運営や認知症のイベントのお手伝いなどの活躍の場も増えてきました。

今後も、認知症啓発活動を積極的に行い、認知症にやさしいまちづくりの為の取り組みを地域の方やチームオレンジのメンバーと共に取り組んでいきたいと思っております。

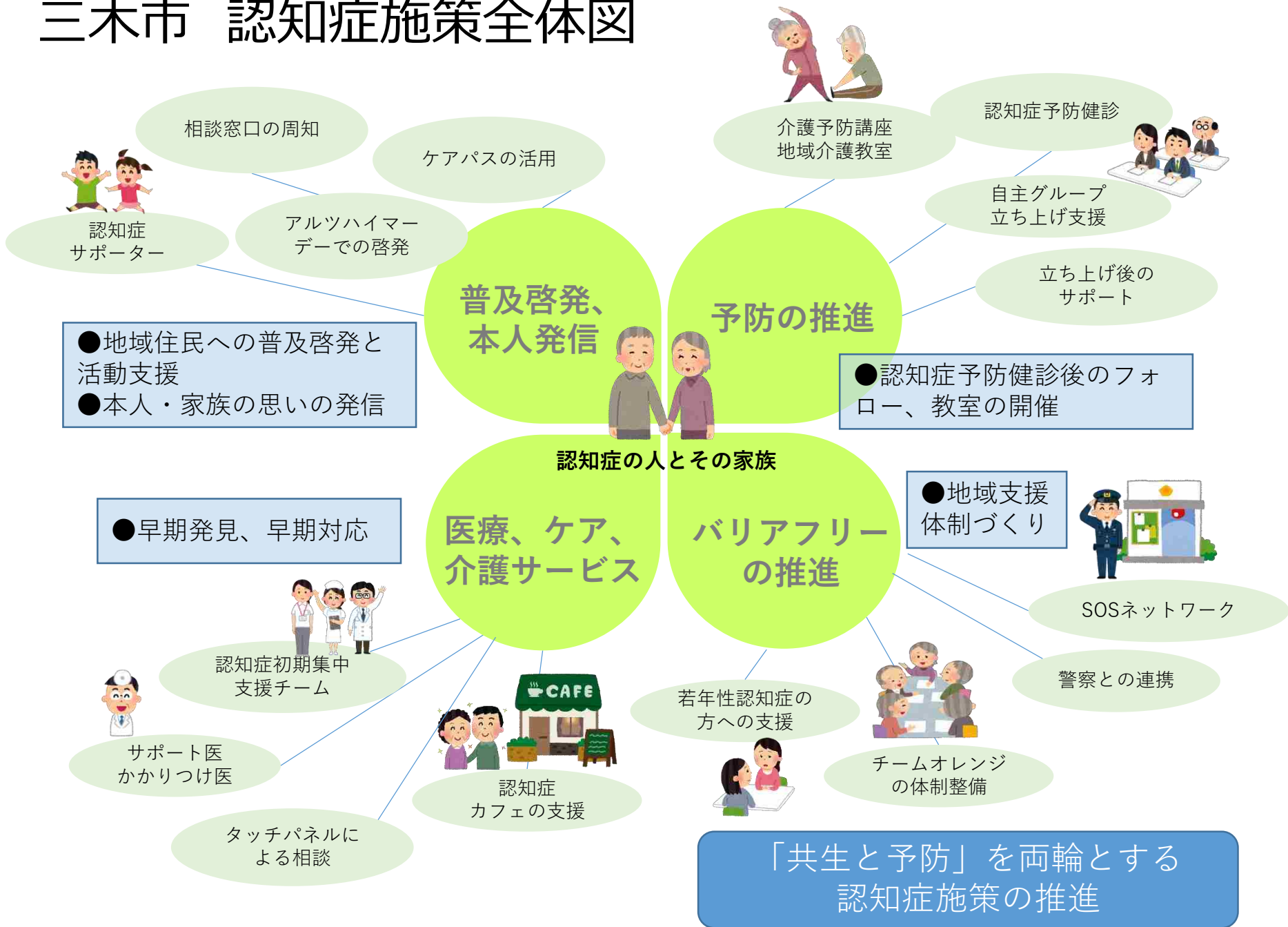
令和4年度 三木市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員： 9名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - 認知症の人とその家族への相談支援
 - 認知症についての専門職と地域を対象にした研修の企画
 - 認知症カフェの推進
 - 認知症予防健診
 - 頭部の健康チェック（タッチパネル）による相談
 - 認知症予防教室の企画、教室OB会のフォロー
 - 認知症高齢者等の見守りSOSネットワーク
 - 認知症初期集中支援チームとの連携

報告者氏名:三木清香、宇根利幸

三木市 認知症施策全体図



標題 認知症の正しい理解を広めるための普及啓発活動

9月 世界アルツハイマーデー啓発

●世界アルツハイマーデーにちなんで、子どもから高齢者まで、さまざまな人へ認知症への理解を広めるため、市役所前のオブジェをオレンジ色にライトアップしました。

実施期間：R4年9月1日～9月21日
日没～午後10時

●「広報みき」に介護予防と認知症についての特集記事を組み、認知症ご本人とご家族へのインタビュー記事を掲載しました。

●認知症に関する相談先の啓発のため、昼休みに庁内放送を実施しました。内容は地域包括支援センターの職員で案を出し合い、決定しました。



認知症サポーター養成講座



令和4年度は **305名** の認知症サポーターが誕生しました (累計6372名)

対象者	人数
小学生、教員	139名
大学生、教員	89名
病院関係者	6名
地域住民	71名



R5.3月末現在

小学生から高齢者までさまざまな年代の方に認知症のことを学んでいただくことで、地域の皆さんが認知症に対しての偏見をなくし、適切な対応ができるよう取り組んでいます。

参加者の声

認知症の人だけでなく困った人を助けたい



「違うよ、ダメだよ」というのではなく、「こうしたらいいんだよ」と声をかけたい

認知症の方やご家族に対して温かい支援ができるようになりたい



自分にできることをしていきたい



認知症キャラバン・メイト養成研修

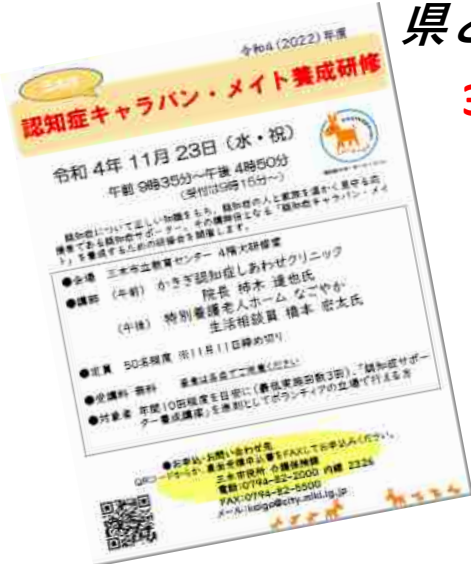
キャラバン・メイト養成研修を
県と合同で実施しました。

30名のキャラバン・メイトが誕生しています。

実施日
令和4年11月23日（水・祝）

場所
三木市立教育センター

登録者数
146名
(R5.3月末)



参加者	人数
介護従事者（ケアマネ、施設職員等）	7名
医療従事者（看護師、作業療法士）	4名
民生委員・児童委員	3名
ボランティア等	16名



工夫した点

カリキュラム内の「キャラバン・メイトの役割と講座運営の実際」の項目では、実際に三木市内で認知症のご本人とご家族を支援するボランティアグループの代表者に講義を依頼しました。養成講座の企画運営から、対象者に合わせた寸劇、アンケートの分析等、今後の活動の参考になるお話を聞かせてもらいました。

参加者の声 講師の先生の説明がわかりやすかった。グループワークで意見交換ができて有意義な時間を過ごせた。地域で少しでも役に立てるようになりたい。すでに地域で活躍されている方のお話を聞くことができ、元気をもらえた。

今後の課題 新たに誕生したキャラバン・メイトの方々が、その後の活動につなげていけるように、お互いの活動報告や情報交換ができるような組織づくりも必要と考えています。

最後に・・・

今年もたくさんの認知症サポーター、キャラバン・メイトが誕生しています。地域のひとりひとりが認知症を正しく理解し、他人事としてではなく、『自分のこと』として受け止め、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう取り組んでいきます。

令和4年度 小野市認知症地域支援推進員活動報告

1. 小野市の認知症地域支援推進員について

(1) 認知症地域支援推進員：2名

(2) 認知症地域支援推進員の役割

- 地域における認知症の人やその家族の支援体制の構築
認知症の人やその家族からの相談支援
絆カフェ（認知症カフェ）の開催
「チームオレンジおの」
- 地域の関係機関との連携
医療機関や介護の関係者との連携
認知症初期集中支援チームとの連携
- 認知症の理解や対応力向上のための支援
認知症サポーター養成講座の開催
認知症の人の家族を対象とした介護教室の開催

＜報告者＞小野市地域包括支援センター 今枝 陽子

2. 小野市の認知症施策

①	認知症の理解を深めるための普及・啓発	<ul style="list-style-type: none">・認知症サポーター・認知症キッズサポーター養成講座・認知症の人本人や家族からの発信支援・出前講座の開催・認知症図書の掲示・キャラバン・メイト連絡会の開催
②	認知症の予防・早期発見・早期診断	<ul style="list-style-type: none">・認知症初期集中支援チームの設置・ケアネットガイドブックの活用・もの忘れ検診事業・いきいき100歳体操・「おの楽しく体操」DVDのレンタル・販売・脳トレテキストの配布
③	医療・ケア・介護サービス・介護者の支援	<ul style="list-style-type: none">・在宅医療・介護連携推進事業・認知症ケアパスや連携ツールの周知・活用・認知症サポーター ステップアップ研修・「チームオレンジおの」の活動・絆カフェの立ち上げ支援、絆カフェ連絡会、講師派遣・高齢者外出見守り事前登録制度・高齢者外出見守り模擬訓練の実施・小野市地域の見守り活動に関する協定・認知症高齢者等見守り機器購入費等助成事業・介護者交流会・介護者家族会
④	若年性認知症施策の強化	<ul style="list-style-type: none">・総合相談窓口の設置・家族支援、生活環境の調整・認知症疾患医療センターや若年性認知症支援コーディネーター等との連携
⑤	認知症バリアフリーの推進と社会参加支援	<ul style="list-style-type: none">・「認知症バリアフリー」の推進

3. 令和4年度 小野市認知症地域支援推進員活動報告

地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組

認知症サポーター「チームオレンジおの」立ち上げ

月	活動	内容
4月	周知	<ul style="list-style-type: none">・市内介護サービス事業所へ説明・ボランティア保険加入
7月	連絡会	<ul style="list-style-type: none">・名札、ユニフォーム配布、活動内容説明・神戸新聞に掲載
8月～3月	活動	<ul style="list-style-type: none">・毎月第2水曜日 13時30分～15時 (8月は新型コロナウイルス感染症を鑑み中止)
9月	広報	<ul style="list-style-type: none">・活動の様子を神戸新聞の取材を受け掲載・広報おの「ONO Press (おのプレス)」に掲載
10月	普及啓発	<ul style="list-style-type: none">・小学校4年生対象「高齢者外出見守り模擬訓練」にて道に迷う高齢者役を演じる
11月	普及啓発	<ul style="list-style-type: none">・モデル地区対象「高齢者外出見守り模擬訓練」にて道に迷う高齢者役を演じる・チームオレンジの活動紹介
12月	研修	<ul style="list-style-type: none">・認知症サポーター ステップアップ研修 「認知症ケアの理念・倫理」～旅のことばカード～
3月	連絡会	<ul style="list-style-type: none">・令和4年度の活動報告・振り返り・令和5年度の活動計画



「認知症キッズサポーター養成講座」の実施

令和4年度は計**449**名の認知症キッズサポーターが誕生
(平成27年度の実施開始以降、累計**3,249**名)



クイズで
楽しく学ぶ



道に迷った
高齢者に
声をかける
体験



ゲームで
脳をイメージ

【受講した児童の声】

- 認知症の人は全部できないのではなくて、できることもあるんだとわかりました
- 認知症の人と接するときのポイントを覚えることができた
- オレンジリングをつけて優しくよりそいたい
- クイズが楽しくて分かりやすかったです

高齢者外出見守り事前登録制度

高齢者外出見守り事前登録を希望された市内在住の65歳以上、又は40～64歳で要介護認定を受けている人に「お出かけ見守りQRコードシール」を無料で10枚お渡ししています

令和5年3月末現在 外出見守り事前登録者 **188名**

発見者がスマートフォンでQRコードを読み取る

市の連絡先が表示される

市や警察へ、シールに印字された個人番号を伝え、素早い身元確認・保護へ



認知症高齢者等見守り機器購入費等助成

認知症等により行方不明になるおそれのある高齢者等の所在を特定することができるGPS機器の購入またはレンタルに係る初期費用の一部を助成しています

令和4年12月開始

令和5年3月末現在 利用者 **3名**

高齢者外出見守り模擬訓練の実施

認知症を正しく理解し、認知症の方に配慮した声掛けや見守りができるように、平成27年度より、モデル地区において高齢者見守り模擬訓練を実施しています

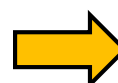
令和4年11月19日実施 44名が参加



認知症サポーター養成講座を受講



声かけの仕方を寸劇で学ぶ



認知症役の名前や特徴を
模擬警察署に通報

【参加者の声】

- ほのぼのと心温まる講話を聞き、認知症の方が幸福に生きていける社会であってほしいと思う時間でした
- お互いにコミュニケーションをとり、地域全体で見守りをしていきたい
- 関心を持って声掛けを行いたいと思います
- 学べて良かった。体験することの大切さも実感しました
- QRコードがもっと普及すると安心

【予定】令和5年度 来住地区にて実施

絆カフェ（認知症カフェ）

市内10か所（令和5年3月現在）で実施
※新型コロナウイルス感染症対策として、7か所休止中



認知症図書設置

小野市立図書館の特設コーナーに
認知症に関する本を掲示



認知症地域支援推進員活動の今後の課題

- ◆認知症に関する理解促進をはじめ、相談窓口の周知、認知症の人本人や家族からの発信支援に取り組む
- ◆地域の要望に応じて出前養成講座を開催するとともに、民間企業や児童館等に周知を行い、若い世代へのアプローチを積極的に行う
- ◆若年性認知症の人に対応するサービスの創設や各種事業との連携、体制構築を図る
- ◆「チームオレンジおの」の地域での活動を拡充し、認知症高齢者を地域全体で見守る体制を整備する

認知症地域支援推進員としての思い

- ◆小野市は高齢者にやさしいまちづくりを推進しています。地域での支え合い、ニーズに応じた施設・住まいの支援、社会参加の促進などを通じて、地域づくりに関わっていきたいと思います
- ◆認知症になることで、外出や交流の機会が減っている実態があります。生活のあらゆる場面での障壁を取り除き、認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、『認知症バリアフリー』を推進していきたいと思います

令和4年度

【加西市】認知症地域支援推進員活動報告

【加西市】の認知症地域支援推進員について

1. 認知症地域支援推進員： 5 名

2. 認知症地域支援推進員の役割

(1)医療・介護等の支援ネットワーク構築

- * 認知症の容態に応じて必要な医療や介護等のサービスが受けられるように関係機関との連携の構築
- * 加西市認知症ハンドブック(ケアパス含む)、認知症サポーター養成講座の普及等

(2)認知症対応力の向上のための支援

- * 介護者家族の会「楽・笑・介」や「絆カフェ」への参加
- * 処遇困難事例の検討及び個別支援
- * 介護保険施設等の相談員への支援
- * 市民への認知症の理解を深める講座「あったか声かけ作戦」への参加

(3)相談支援・支援体制の構築

- * 認知症の人や家族等への相談支援
- * 「認知症初期集中支援チーム」との連携等による必要な支援が認知症の人や家族へ提供されるための調整
- * 区長・民生委員等の地域住民と連携した地域福祉活動による認知症の人や家族への相談支援

報告者氏名:加西市長寿介護課 尾崎昌子

加西市社会福祉協議会 認知症地域支援推進員 井上綾子

【加西市】認知症施策の概要



	行政・包括	地域
予 防	<ul style="list-style-type: none">いきいき100歳体操サポーター養成講座開催ぐんぐん元気に！介護予防教室・のびのび健康教室相談支援（地域包括支援センター）	<ul style="list-style-type: none">サロン・介護予防教室あったか声かけ作戦
早期発見 （行政・地域 包括支援セン ター）	<ul style="list-style-type: none">認知症高齢者等見守りSOSネットワーク認知症初期集中支援チーム認知症に係る支援対象者情報提供制度による連携認知症早期対応促進事業相談支援（地域包括支援センター）	<ul style="list-style-type: none">あったかシステム（小地域ネットワークシステム）（区長・民生委員等）
早期発見 （見守り）	<ul style="list-style-type: none">認知症高齢者等見守りSOSネットワーク事前登録制度認知症に係る支援対象者情報提供制度による連携高齢者見守りシステムの構築（BLEタグ）ひとり外出高齢者等家族支援事業（GPS・BLEタグの購入助成）	<ul style="list-style-type: none">認知症サポーター認知症キャラバンメイト
医療連携	<ul style="list-style-type: none">加西市医師会認知症サポート医市立加西病院在宅医療、介護連携相談室(H30.2～)地域ケア個別会議	<ul style="list-style-type: none">かかりつけ医認知症サポート医歯科医師会薬剤師会
地域連携	<ul style="list-style-type: none">認知症ハンドブック（認知症ケアパス）地域ケア個別会議	<ul style="list-style-type: none">絆（認知症）カフェ楽・笑・介
人材育成	<ul style="list-style-type: none">認知症ハンドブック（認知症ケアパス）ケアマネジャー等と連携	<ul style="list-style-type: none">認知症サポーター養成講座

【加西市】認知症施策全体図

- かさいいきいき体操
- サロン 他



予防・
地域啓発

- 認知症高齢者
見守り・SOSネットワーク
- 認知症初期集中支援チーム 他



早期
発見



- 認知症サポーターの養成
- ケアマネジャー等との
連携 他

人材
育成



医療
連携



- サポート医

地域
連携



- 絆カフェ
- 楽・笑・介
- 地域ケア個別会議 他



- 在宅医療・介護相談室 他



標題 出張型認知症カフェの取り組み ～今こそつながろう・つなげよう地域とのきずな～

新型コロナウイルスの影響…

「介護に疲れた」
という相談増



なにより…
「え、認知症カフェ
やってないの？」



「閉じこもりで心配」
という相談増



地域のサロンが
ストップ



市内の認知症カフェは
再開の目途が立っておらず
案内ができない状態が続いていた

課題



様々な、「つどいの機会」が失われている
地域のつながりの機会も少ない
推進員が実施している「認知症カフェ」では
平日に参加できない人もいる



地域の中で集う機会を増やしたい。
地域と一緒になにかができることはないだろうか？

まずは…

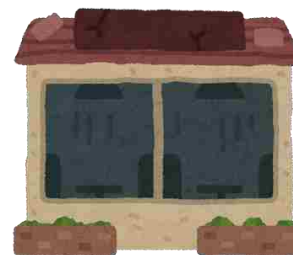
“地域のお宝”（新たな社会資源）を探す！



お店



公民館



空き店舗

地域の店舗などを
訪問していく中で、
地域資源として、
“お寺さん”の存在に気付く💡



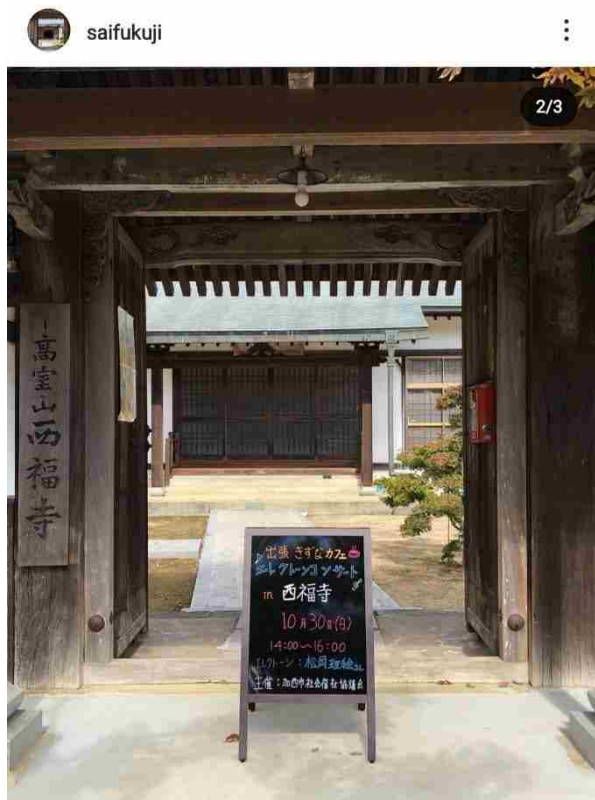
曹洞宗 西福寺 後藤住職の思い

もともとお寺は地域の拠り所となる場所。
檀家だけでなく、地域の誰もが
気軽に集える場所にしていきたい。
認知症カフェとして地域や
認知症の方々をつなぐ
社会貢献ができればいいな…



出張型の“認知症カフェ”

加西市社協「きずなカフェ」×西福寺



チラシやそれぞれの Instagramでの広報。 SNSを活用する高齢者世代にも目に留まり参加につながった

インサイトを表示

投稿を宣伝

いいね! : oirase_shakyoさん、他29人が「いいね!」しました
kasai_syakyo 明日30日は東高室西福寺さんにて
😊❤️エレクトーンコンサートです😊❤️
14:00より西福寺さんにて!!!
出張きずなカフェします😊

☆推進員として…

認知症やその介護で、だんだんと地域のつながりから足が遠のきがちになってしまうことが加西市でも起こっています。地域への参加を推進できるように、加西市内の“地域の力”を見つけて、地域と一体となったつながりづくりを進めていけるように、また市内のお宝探しに努めたいと思っています。



令和4年度 加東市 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

1 認知症地域支援推進員：5名

2 認知症地域支援推進員の役割

★認知症の相談支援

★認知症の早期発見・早期支援

★認知症の人、その家族の居場所づくり

●認知症カフェ・絆カフェの支援

●若年性認知症の当事者・家族の会の活動支援

★地域における支援体制の強化

●認知症サポーター養成講座

●認知症高齢者の見守り・SOSネットワークの構築

報告者氏名：高濱さおり・羽馬里恵・浅田玲子・西村真希・武田大基

【加東市】 認知症施策全体図

認知症ケアネットと
相談支援体制

○認知症相談センター

認知症の早期発見
・ 早期支援

○物忘れ相談プログラム
○認知症初期集中支援事業

認知症の人とその
家族への支援

○認知症家族介護者のつどい
○物忘れ予防カフェ

地域における支援
体制の強化

○認知症サポーター養成講座
○ひとり外出見守り・SOSネットワーク



【加東市】R4年度認知症地域支援推進員具体的活動報告
テーマ：地域共生社会・認知症バリアフリー実現にむけた取組
～認知症高齢者等の見守り、SOSネットワークの充実について～

表題) 地域高齢者の見守り強化 ～ひとり外出見守り声かけ体験ウォーキングの実施～

1 オリエンテーション(15分)
ウォーキングコースの案内と声かけや対応のポイントを説明



2 声かけウォーキング開始 (1時間)
ウォーキング中に出会った道迷い高齢者役の人に声かけ



3 ゴール・振り返り (20分)
グループごとに声かけ体験の感想、振り返り



参加者の感想

声かけの後、どこまでかかわるかが難しい。



声かけのタイミング、声のトーン、速さが難しい。

高齢者役の感想

- ・やさしく、ゆっくり、親切に、同じ目線で対応してもらえた。
- ・「どうしましょうかね。困りましたね。」
「ここにおってください。電話しますので待ってください。」
などと声をかけられて安心できた。

ひとり外出見守り声かけ体験

ウォーキングの効果と課題

-  「認知症の方への声かけの具体的なポイント」を学び、ひとり外出中の高齢者役に声をかける体験をすることで、日頃からの見守りや声かけが行いやすくなった。
-  より安心・安全にひとり外出ができる環境づくりのために、地域や学校等の様々なところで実施し、多世代による地域の見守りの目を増やすことが課題です。

• 最後に・・・

引き続き、講座や体験イベントの開催により、地域住民の認知症に対する理解への普及啓発を行うとともに、地域のキーパーソンや既存の社会資源を活用しながら、認知症の人やその家族の支援ニーズをつなげるチームオレンジ活動につながる支援に取り組んでいきたい。

令和4年度 多可町 認知症地域支援推進員活動報告

認知症地域支援推進員について

- 1 認知症地域支援推進員：8名
- 2 認知症地域支援推進員の役割
 - * 認知症相談センターとしての相談・対応
 - * 認知症ケアネットの普及
 - * SOSネットワークの普及・拡大
 - * 地域支援者の仕組みづくり・支援








報告者氏名： 多可町役場ふくし相談支援課
（地域包括支援センター）
大江・足立・高瀬・下原・岸部

多可町の認知症施策について

多可町が目指す姿 (多可町第8期介護保険計画より)

◆基本理念 みんなで支えあい、安心して健やかに暮らせるまち ◆基本方針 認知症施策と権利擁護の推進



	認知症発症を遅らせる取組 (一次予防)の推進	早期発見・早期対応(二次予防)、 発症後の進行を遅らせる取組(三次予防)の推進	認知症の人本人視点に立った 「認知症バリアフリー」の推進	
普及啓発・ 本人発信支援	<p>認知症サポーター養成講座 認知症に対する正しい知識や対応方法を身につける講座です。</p> <p>★集落だけでなく、小学校や高校、企業、老人会等で実施します。</p> 	<p>相談窓口の周知 町内に6か所の認知症相談センターがあり、身近に相談できる体制があります。</p> <p>★R4年度より新たに1箇所増えたため、PRをしていきます。</p>	<p>絆カフェ (本人発信・家族支援) お茶を飲みながら気軽に認知症等の相談や、本人や家族同士の交流が行える場です。</p> <p>★コロナ禍でも実施を検討できるよう、事業所の連絡会を定期的に行い、チームオレンジと連携します。</p> 	
予防	<p>認知症予防健診 町ぐるみ健診や後期高齢者健診で認知症チェックリストまたはタッチパネルを実施します。</p> <p>★認知機能の低下が認められる場合は、予防教室や医療・介護につながります。</p> 	<p>リフレッシュ教室 医療専門職によるもの忘れ予防の教室です。12回コースを年2回実施。</p> <p>★終了後は地域の居場所へつながります。</p>		
	<p>73歳タッチパネル実施 ★R4年～実施 75歳の運転免許更新前の73歳を迎える方を対象に認知症タッチパネルを実施しています。</p>	<p>元気あっぷ広場 週1回公民館でいきいき百歳体操を行います。</p> <p>★1年目、5年目に認知症タッチパネルを実施します。</p>		
医療・ケア・介護サービス・ 介護者への支援		<p>認知症初期集中支援チーム サポート医と医療・介護の専門職で構成するチームが訪問し、早期対応に向けた支援を行います。</p> 	<p>認知症ケアネット 認知症の様態に応じたサービス提供の流れをまとめたものを作成しています。</p>	
認知症バリアフリーの推進・ 若年性認知症の人への 支援・社会参加支援		<p>チームオレンジ ステップアップ講座を受講した認知症サポーターが認知症の人やその家族への支援を行います。</p> <p>★R4年から活動始めます！</p>	<p>成年後見制度の利用促進 認知症等により、判断能力が十分でない方が不利益とならないように、家庭裁判所に申し立てをし、後見人を選任してもらう制度です。</p> <p>★研修会を行います。</p>	<p>あんしんはーとねっと事業 認知症などで行方不明になる恐れのある方の情報を事前に警察へ登録し、行方不明の捜索に役立ちます。</p> <p>★R4年秋頃に捜索訓練を検討しています。</p>

テーマ番号 <⑤>

標題 多可町における認知症サポーターの具体的活動支援

「チームオレンジの立ち上げ支援」

(R3年度から継続)

(目的)

認知症の人ができる限り住み慣れた場所で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーター等をつなぐ仕組みづくりを整備し、認知症施策推進大綱に掲げた「共生」の地域づくりを推進する。

(目標)

チームオレンジの方向性を決め、活動の場を作る

R4年度の活動



認知症地域
支援推進員



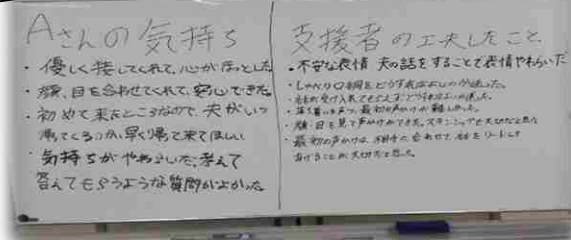
ステップアップ講座受講者

ボランティアしたいけど、
もっと認知症について勉強してから活動したい！

勉強できる機会を作りましょう！



勉強会



推進員が認知症の方への
関わり方のポイントを
説明し、ロールプレイを
実施しました。

絆カフェ見学



他市の絆カフェに見学に行き、
認知症の方とそ
ご家族と交流しました。

R4年度の活動

絆カフェ



参加者：住民25人
ボランティア：8人
推進員：5人

ボランティアが進行し、
推進員は参加者の方の
相談に乗ったり、参加者
へ声かけをしました。



R4年度の活動



認知症について勉強したから、
次はチームオレンジでなにをするかみんなで考えよう！

メンバー会議



推進員がファシリテーター
を務め、メンバーで
どんなことがしたいか話し
合いました。



絆カフェをしてみよう

今年度中に、絆カフェのお試
しをすることとなる。
R5年から本格的にチームオレ
ンジとして活動することに決定

認知症地域支援推進員活動の成果課題



- ・ボランティアの方と一緒に活動の方向性を検討することができ、地域住民の方と推進員の距離が近くなったと感じる。
- ・ボランティアの方が今後も主体的に継続して活動していくための支援として、チームオレンジの規約作成や補助制度の検討等、ボランティアの方と協働して取り組むことができた。
- ・推進員が兼務であり、事業所に委託していることから担当が変わることが課題。活動の方向性を検討し、共有する場を持つなど工夫を行っている。チームオレンジの活動の中では、推進員として相談できる体制の確立や当事者の声を発信する方法を検討していく必要がある。
- ・R5年度もステップアップ講座を実施し、チームオレンジの活動をチーム員より紹介してもらい、新たなボランティアの育成を図っていく。

最後に・・・

ボランティアの方々の積極的な姿勢に感動し、認知症に関心をもち協力していただける方が地域にいらっしゃることに心強く感じました。今後も認知症になっても住み慣れた自宅で過ごすことができるような町を目指し、行政・医療機関・介護施設等が連携していきたいと思えます。